

**第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」  
令和4年度 点検・評価報告書(暫定版)**

令和5年3月

千葉県スポーツ・文化局



# 目 次

はじめに 本報告書の趣旨について	1
1・第13次計画指標の達成状況 進捗管理表	3
2・第13次「千葉県・スポーツ推進計画」指標 令和4年度時点 目標達成率	4
3 基本指標の達成度・実績の推移について	
(A-1)～(A-6)	5～9
(B)	10
(C-1)～(C-2)	11～12
(D-1)～(D-7)	13～15
(E-1)～(E-2)	16
(F-1)～(F-3)	17～19
4 各施策に係る具体的な取組の進捗について	
リンク A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上	21
リンク B 人生を豊かにするスポーツの推進	31
リンク C 誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進	35
リンク D スポーツ環境の整備・充実	39
リンク E 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進	45
リンク F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり	51

## はじめに 本報告書の趣旨

### <趣旨>

本報告書は、第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」に掲げた目標の達成に向けて、計画期間（令和4年度～令和8年度）に実施する重点的な取組について主な施策の実施状況を示すことにより、実効性を高めながら、計画的な事業推進に反映させていくものです。

各施策の実施状況については、今後、県民の運動・スポーツに関するアンケート調査の結果や、千葉県スポーツ推進審議会委員からの御意見を踏まえて、毎年度点検・評価を行い、取組内容等の見直しを図ります。

### <点検評価の対象>

点検・評価の対象は、第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」に掲げられた6つのリンクを実行するため、重点的な取組に位置づけて実施した主な施策・事業を対象としました。

### <点検評価の方法>

第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」には、施策ごとに指標（目標項目）が掲げられています。施策ごとの指標（目標項目）の中には、「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の内容を盛り込み、その指標の達成状況を参考としながら、施策・事業等の実績を明らかにするとともに、課題を分析し、今後の取組について対応を検討します。

### <備考>

#### 「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」（令和4年度は9月～10月実施）

本調査は計画の実現に向け、県民のスポーツニーズを継続的に調査し、計画の進捗状況を把握するとともに、今後の事業推進に伴う基礎資料を得るために、各地域（教育事務所管内）の県民（成人）及び児童生徒を対象に実施するものです。

児童生徒について各校で実施したアンケート結果を集計することで指標とします。アンケートに回答いただく母集団の実態（成人や児童生徒・障害者の方々の総数・内訳）は年度ごとに変化していきますが、可能な限り多くの県民（成人及び児童生徒）に回答をいただくことで、調査結果の信頼性確保に努めます。

### 3 基本指標の達成度・実績の推移について

# 1 第13次「千葉県・スポーツ推進計画」指標 達成状況 進捗管理表

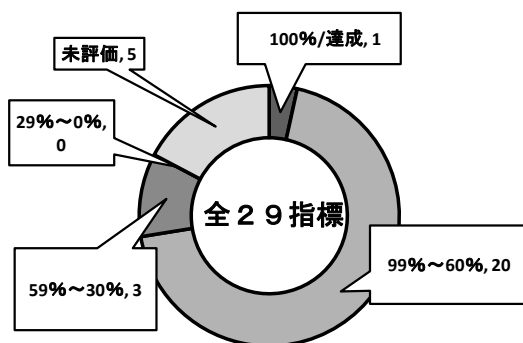
リンク	施策	基本指標		現状	進捗					目標値
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
A 子どもの 体育・ス ポーツ活 動の充実 と体力の 向上	1 幼児期における運動遊 びの充実	休日の運動遊び実施率	幼児	44.9 %	46.7 %	%	%	%	%	65 %
	2 学校体育活動の充実	体育の授業が楽しいと感 じる割合	小学5年	88.7 %	85.5 %	%	%	%	%	95 %
			中学2年	85.9 %	83.4 %	%	%	%	%	90 %
	3 児童生徒の体力の向上	新体力テスト平均点	小学生	47.3 点	47.3 点	点	点	点	点	50 点
			中学生	45.1 点	45.0 点	点	点	点	点	50 点
			高校生	51.8 点	51.1 点	点	点	点	点	55 点
	4 スポーツライフの基盤 となる 運動部活動の充実	運動部活動満足度	中学校	78.6 %	68.2 %	%	%	%	%	80 %
			高等学校	71.1 %	69.0 %	%	%	%	%	75 %
	5 心身の健全な発達に 向けた 食育の推進	担任と栄養教諭・学校栄養士が TTで授業を実施した割合【新規】		52.1 %	60.8 %	%	%	%	%	80 %
		朝食を食べない割合	小5	3.1 %	2.2 %	%	%	%	%	0 %
		中2	5.1 %	3.2 %	%	%	%	%	0 %	
B 人生を豊 かにする スポーツ の推進	1 ライフステージに応じた スポーツ習慣の定着と健康 の増進	週1回程度のスポーツ実 施率	全体	62.5 %	56.7 %	%	%	%	%	70 %
			20~39歳	64.0 %	52.9 %	%	%	%	%	70 %
	40~59歳		58.1 %	51.9 %	%	%	%	%	65 %	
	60歳~		81.4 %	77.5 %	%	%	%	%	経年 増加 %	
C 誰もがと もに楽し める パラスポ ーツの推 進	1 パラスポーツの推進	パラスポーツの観戦・体 験率【新規】	成年	44.9 %	50.9 %	%	%	%	%	50 %
	2 パラアスリートへの強化・ 支援の推進	パラリンピック競技日本代表者数 【新規】		45 人	34 人	人	人	人	人	50 人
D スポーツ 環境の整 備・充実	1 人材の育成	公認スポーツ指導者数		920 人	902 人	人	人	人	人	1,000 人
		障害者スポーツ指導者数		814 人	891 人	人	人	人	人	経年 増加 人
	2 施設の整備と有効活用	県立学校体育施設開放事業登録 団体数【新規】		254 団体	267 団体	団体	団体	団体	団体	経年 増加 団体
		体育施設年間利用者数 (教育庁所管)		412,995 人	656,979 人	人	人	人	人	1,600,000 人
	3 誰もがスポーツに参加 できる組織基盤の充実・ 発展	総合型地域スポーツクラブ認知度		16.0 %	17.2 %	%	%	%	%	20 %
		総合型地域スポーツクラブ数【新規】		86 団体	88 団体	団体	団体	団体	団体	100 団体
総合型地域スポーツクラブ会員数			20,844 人	18,955 人	人	人	人	人	24,500 人	
E 競技力の向上とスポーツ・インテグ リテイの確保	国体入賞		(R1)7 位	7 位	位	位	位	位	入賞 位	
	トップ・アスリートの派遣回数【新規】		(R1)19 回	32 回	回	回	回	回	累計95 回	
F スポーツ の価値の 発信とス ポーツによ る地域づく り	1 アスリートと連携したス ポーツの価値の推進	トップ・プロチームとの連携事業を 実施した市町村の割合		79.0 %	79.0 %	%	%	%	%	100 累計 %
	2 地域資源を生かしたスポ ーツライフの推進と千葉の魅 力発信	スポーツ情報への関心度(県HP のヒット回数)		218万 回	146万 回	回	回	回	回	経年 増加 回
	3 オリンピック・パラリンピ ックのレガシーの継承・発 展	競技団体等と連携した学校訪問 数【新規】		- 回	40 校	校	校	校	校	累計 100 校

## 2 第13次「千葉県・スポーツ推進計画」指標 令和4年度時点 目標達成率

通番	分類番号	基本指標	計画策定時 現状値(a)	今年度実績値 (b)	前年比	目標値 (c)	目標達成率	
			3年度	4年度	b/a×100	8年度	b/c×100	
1	A-1	休日の運動遊び実施率	幼児	44.9%	46.7%	104%	65%	71.8%
2	A-2	体育の授業が楽しいと感じる割合	小学生	88.7%	85.5%	96.4%	95%	90.0%
3			中学生	85.9%	83.4%	97.1%	90%	92.7%
4	A-3	新体力テスト平均点	小学生	47.3点	47.3点	100.0%	50点	94.6%
5			中学生	45.1点	45.0点	99.8%	50点	90.0%
6			高校生	51.8点	51.1点	98.6%	55点	92.9%
7	A-4	運動部活動満足度	中学校	78.6%	68.2%	86.8%	80%	85.3%
8			高等学校	71.1%	69.0%	97%	75%	92.0%
9	A-5	担任と栄養教諭・学校栄養士がTTで授業を実施した割合		52.1%	60.8%	116.7%	80%	76.0%
10	A-6	朝食を食べない割合	小学生	3.1%	2.2%	71%	0%	97.8%
11			中学生	5.1%	3.2%	62.7%	0%	96.8%
12	B	週1回程度のスポーツ実施率	全体	62.5%	56.7%	90.7%	70%	81.0%
13			20～39歳	64.0%	52.9%	82.7%	70%	75.6%
14			40～59歳	58.1%	51.9%	89.3%	65%	79.8%
15			60歳～	81.4%	77.5%	95.2%	経年増加	R6評価予定
16	C-1	パラスポーツの観戦・体験率	成年	44.9%	50.9%	113.4%	50%	101.8%
17	C-2	パラリンピック競技日本代表者数		45人	34人	75.6%	50人	68.0%
18	D-1	公認スポーツ指導者数		920人	902人	98.0%	1000人	90.2%
19	D-2	障害者スポーツ指導者数		814人	890人	109.3%	経年増加	R6評価予定
20	D-3	県立学校体育施設開放事業登録団体数		254団体	267団体	105%	経年増加	R6評価予定
21	D-4	体育施設年間利用者数(教育庁所管)		412,995人	656,979人	159.1%	1,600,000人	41.1%
22	D-5	総合型地域スポーツクラブ認知度		16.0%	17.2%	107.5%	20%	86.0%
23	D-6	総合型地域スポーツクラブ数		86団体	88団体	102.3%	100団体	88.0%
24	D-7	総合型地域スポーツクラブ会員数		20,844人	18,955人	90.9%	24,500人	77.4%
25	E-1	国体入賞		(R1)7位	7位	△	入賞位	R6評価予定
26	E-2	トップ・アスリートの派遣回数		(R1)19回	32回	168.4%	累計95回	33.7%
27	F-1	トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合		79.0%	79.0%	100%	累計100%	79.0%
28	F-2	スポーツ情報への関心度(県HPのヒット回数)		218万回	146万回	67.2%	経年増加	R6評価予定
29	F-3	競技団体等と連携した学校訪問数		-回	40校	△	累計100校	40.0%

各リンク指標達成状況一覧表

各リンク目標達成率分布	100%/達成	99%～60%	59%～30%	29%～0%	未評価
A(11項目)	0	11	0	0	0
B(4項目)	0	3	0	0	1
C(2項目)	1	1	0	0	0
D(7項目)	0	4	1	0	2
E(2項目)	0	0	1	0	1
F(3項目)	0	1	1	0	1
計29項目	1	20	3	0	5



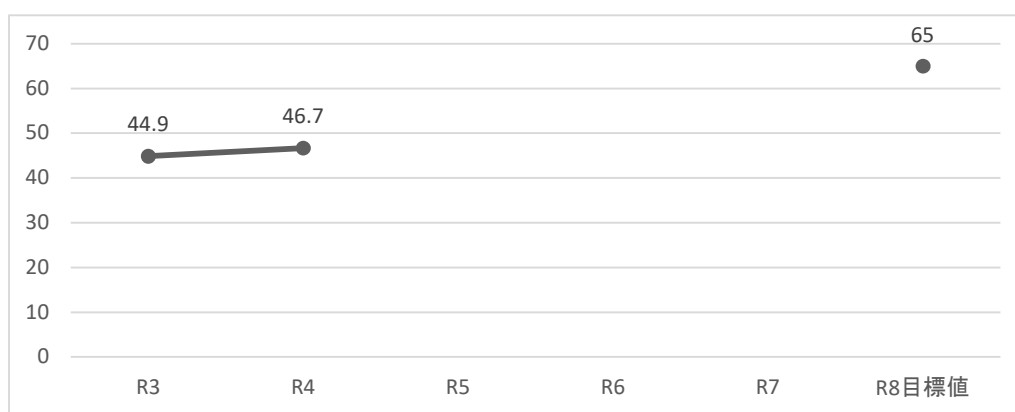
## 基本指標について

基本指標	(A-1) 休日の運動遊び実施率
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	1 幼児期における運動遊びの充実
施策の目標・方向性	<p>楽しく体を動かす遊びを通して、運動習慣の基盤を作り、運動能力の基礎を培います。</p> <p>ア 保護者への啓発及び情報提供 イ 指導者（保育者）への研修</p>

## 基本指標の達成度について

計画策定時現状値(a)	今年度実績値(b)	前年度比 $b/a \times 100$	目標値(c)	目標達成率 $b/c \times 100$
3年度	4年度		8年度	
44.9	46.7	104%	65	71.8%

## 実績の推移(令和3年度～令和8年度)



年度毎実績	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
休日の運動遊び実施率(%)	44.9	46.7				65

## 総括

指導者（保育者）の理解や資質・能力の向上を図るため指導者への研修会を実施し、「幼児期運動指針」を活用した運動遊びや活動、園における環境づくり等が行われるよう指導した。

また、幼児教育の質向上及び幼保小接続の円滑化を図るために、総合教育センターに幼児教育アドバイザーを5名配置し、研修会講師及び園への指導・助言等の業務に携わった。

さらに、保護者への啓発・情報発信として、家庭教育リーフレット（幼児版）に身体を動かすことの重要性や基本的な運動の仕方を身につける大切な時期であることを明記して幼児保護者に配布したり、「親力アップ！いきいき子育て広場」のホームページに市町村ごとの地域情報を適宜更新することで、県民へ運動遊びができる施設・講座の情報を周知したりするなど、様々な情報発信を行った。

基本指標は令和3年度より微増となった。上記の情報発信を通じて幼児期における運動遊びの充実を推進したことが結果につながったと考える。

今後も保護者への啓発及び情報提供に努めるとともに、指導者（保育者）への研修を推進することを通じて指導者（保育者）の理解や資質・能力の向上を図っていく。



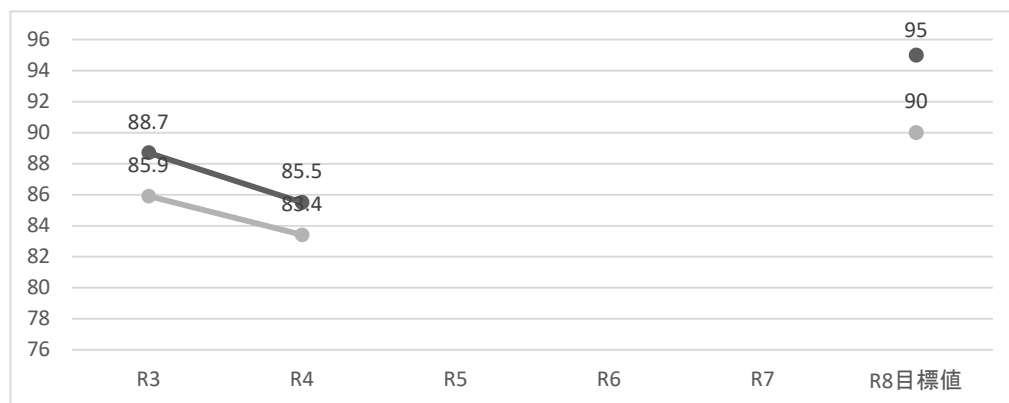
## 基本指標について

基本指標	(A-2) 体育の授業が楽しいと感じる割合
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	2 学校体育活動の充実
施策の目標・方向性	教科体育・体育的活動の指導力の向上及び、個々の発達段階を踏まえた支援の充実と指導内容の明確化を図ります。 ア 体育の授業改善と指導者の指導力向上 イ トップ・プロスポーツの活用 ウ パラスポーツを通じた学校間交流 エ 個々の発達段階に応じた支援の充実と指導内容の明確化

## 基本指標の達成度について

	計画策定時現状値(a)	今年度実績値(b)	前年度比 b/a×100	目標値(c)	目標達成率 b/c×100
	3年度	4年度		8年度	
小5	88.7	85.5	96.4%	95	90.0%
中2	85.9	83.4	97.1%	90	92.7%

## 実績の推移(令和3年度～令和8年度)



実績(%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
小5	88.7	85.5				95
中2	85.9	83.4				90

## 総括

学習指導計画や体育指導法の改善・充実に資するため、研究大会を令和4年11月18日に船橋アリーナ等で開催し、県内より362名の学校体育関係者がこれに参加した。

また、トッププロスポーツ団体と連携し、選手・コーチ等を県内の小学校10校に派遣し、スポーツ教室や講演会等を実施した。

基本指標は令和3年度から低下した。このことについて、児童生徒に「今後どのようなことがあれば今より体育の授業が楽しくなると思うか」との質問を行ったところ、「自分のペースで運動を行うこと」や「人と比較されないようにしたい」等に多くの回答が見られた。このことから、児童生徒が「できた」という喜びや達成感を得ることができるようになるとともに他者と関わって運動することの楽しさや、多様な運動の楽しさも感じるようにすることも必要であると考えられる。

引き続き、授業の工夫・改善や指導力向上に取り組んでいくとともに、トップ・プロスポーツ団体、アスリートの学校訪問やパラスポーツを通じた学校間交流を推進し、運動への動機づけ、意欲向上を図っていく。

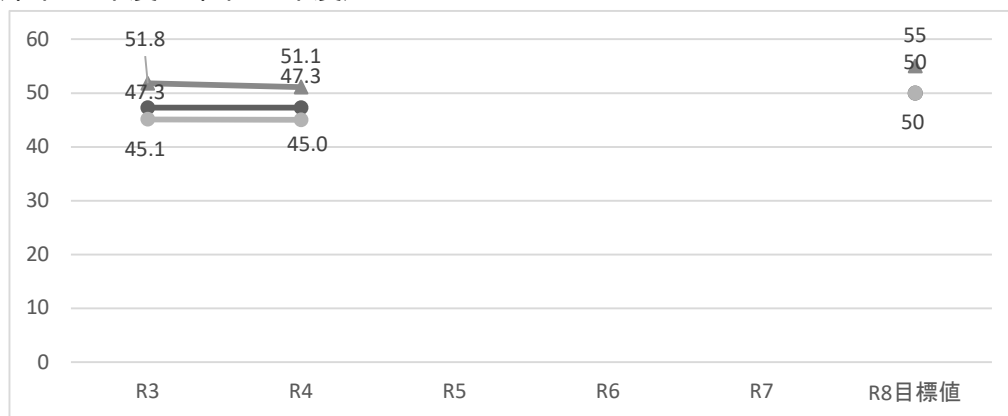
## 基本指標について

基本指標	(A-3) 新体力テスト平均点
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	3 児童生徒の体力の向上
施策の目標・方向性	児童生徒の体力の向上に努めるとともに、運動の習慣化を推進します。 ア 体育の授業改善、教師の指導力向上 イ 児童生徒に対する体力向上の啓発 ウ 運動の日常化

## 基本指標の達成度について

	計画策定時現状値(a)	今年度実績値(b)	前年度比 b/a×100	目標値(c)	目標達成率 b/c×100
	3年度	4年度		8年度	
小	47.3	47.3	100.0%	50	94.6%
中	45.1	45.0	99.8%	50	90.0%
高	51.8	51.1	98.6%	55	92.9%

## 実績の推移(令和3年度～令和8年度)



実績(%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
小	47.3	47.3				50
中	45.1	45.0				50
高	51.8	51.1				55

## 総括

児童生徒の体力の向上を目指して、全8種目の新体力テスト実施、総合評価A段階の児童生徒に対する運動能力証の交付、「遊・友スポーツランキングちば」を前・中・後期にかけて実施する等、各事業に取り組んだ。

基本指標は令和3年度と比較して若干低下した。今年度の調査は4月～11月にかけて行ったもので、学校生活における活動制限は緩和されていたものの、新型コロナウイルス感染症流行の運動機会の減少等の影響が強く残ったものと考えられる。また、「令和4年度体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、運動する子としない子の二極化が進んでいることも原因のひとつと考えられる。

今後は、児童生徒の体力向上に向けて、体育の授業改善と授業以外の時間での運動機会の設定により、運動の日常化に取り組んでいく。授業改善については、指導計画を工夫して、意図的に体力の向上をねらった継続的な取組を取り入れたり、児童生徒の関心・意欲の喚起に努めたりして、主体的に運動に取り組ませることで、運動の日常化を図る。

授業以外の時間での運動機会を設定については、県の事業の1つである、児童生徒が仲間と協力し合いながら運動に取り組む「遊・友スポーツランキングちば」への積極的な参加を奨励し、継続的な運動習慣の構築を図る。

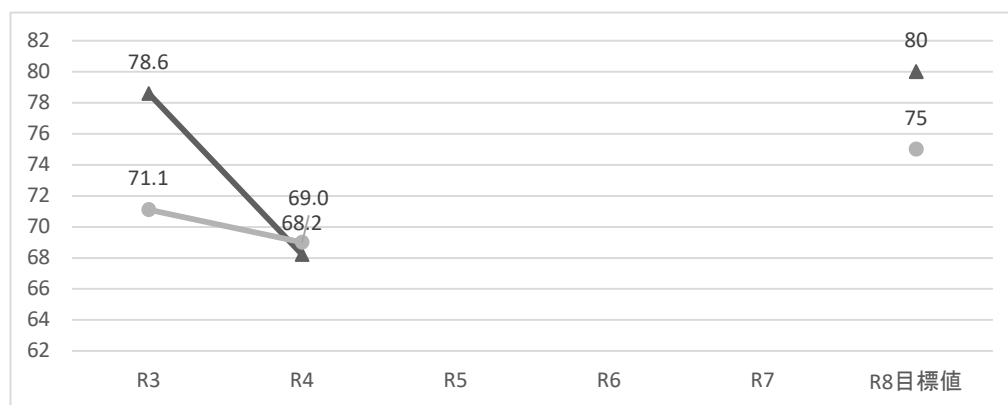
## 基本指標について

基本指標	(A-4) 運動部活動満足度
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	4 スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討
施策の目標・方向性	生徒の興味関心・ニーズに応じた活動及び、地域と連携した部活動の推進を図ります。 ア 地域部活動への段階的な移行 イ 外部指導者の派遣 ウ 講習会等の充実 エ 運動部活動中の事故防止の徹底

## 基本指標の達成度について

	計画策定時現状値(a)	今年度実績値(b)	前年度比 b/a×100	目標値(c)	目標達成率 b/c×100
	3年度	4年度		8年度	
中学校	78.6	68.2	86.8%	80	85.3%
高等学校	71.1	69.0	97%	75	92%

## 実績の推移(令和3年度～令和8年度)



実績(%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
中学校	78.6	68.2				80
高等学校	71.1	69.0				75

## 総括

地域部活動への段階的な移行について、7月、11月に全市町村に対しての説明会を実施し、地域スポーツクラブ活動の運営団体との連携の在り方、費用負担の在り方、課題について県内各地域で共有した。また、専門的な指導力を備えた外部指導者を県立学校40校に40名派遣するとともに、部活動に係る技術的な指導に従事する部活動指導員を67名配置する等、運動部活動の充実に向けて取り組みを進めた。基本指標は中学校、高等学校とも低下しており、特に中学校については10ポイントの低下が見られた。このことについて、特に中学校においては、少子化における部活動の縮小（1校でチームが編成できない、廃部等）や、学校への指導者の未配置（指導できる教員がいない）が背景にあることが考えられる。また、近年は競技団体に所属する生徒もいることから、「部活動離れ」が見られることも推測される。今後、生徒のより良いスポーツ環境を整えることを目的とし、地域クラブ活動を推進するとともに、中学校においては部活動指導員の配置を引き続き推進していく。

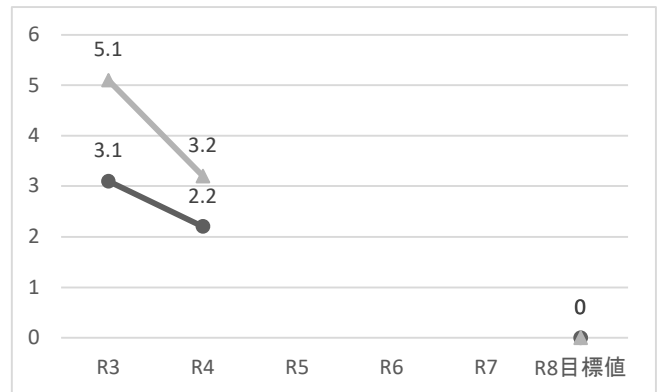
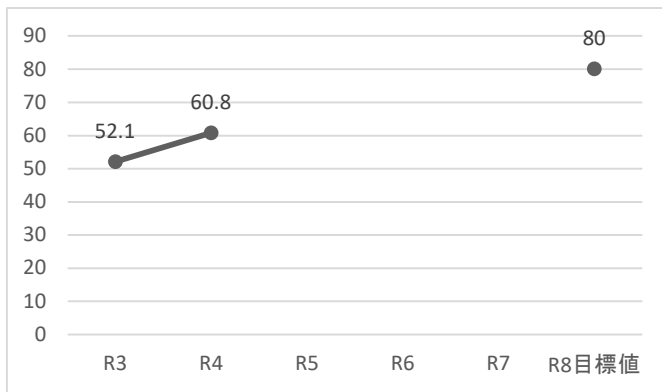
基本指標について

基本指標	(A-5) 担任と栄養教諭・学校栄養士がTTで授業を実施した割合 (A-6) 朝食を食べない割合
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	5 心身の健全な発達を支える食育の推進
施策の目標・方向性	発達段階に応じた食育を推進します。 ア 食に関する指導のあり方についての研修・研究協議 イ 地域と連携した学校給食・食育活動支援 ウ 食育の啓発と情報提供

基本指標の達成度について

	計画策定時現状値(a)	今年度実績値(b)	前年度比 b/a×100	目標値(c)	目標達成率 b/c×100 (A-6)100-b
	3年度	4年度		8年度	
(A-5)	52.1	60.8	116.7%	80	76.0%
(A-6)小5	3.1	2.2	71%	0	97.8%
(A-6)中2	5.1	3.2	62.7%	0	96.8%

実績の推移(令和3年度～令和8年度)※左：授業実施割合グラフ/右：朝食グラフ



実績(%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
授業実施割合	52.1	60.8				80
朝食を食べない割合(小5)	3.1	2.2				0
朝食を食べない割合(中2)	5.1	3.2				0

総括

食育の推進を目的として、栄養教諭・学校栄養職員の悉皆研修や地域における食育指導推進事業を進めるとともに、研修を通じてTTによる授業実践について、参観や意見交換を実施した。また、「食に関する指導事業」では、当課から食に関する指導の在り方等について、各教育事務所管内の学校を対象に地域ごとに説明や情報交換を実施した。さらに、ICTを活用し、教科等における食に関する指導や給食時間における食に関する指導等を行うことで、児童生徒に食（朝食を含む）の重要性について理解を促した。

A-5の基本指標について、今年度は令和3年度の達成度52.1%から8.7ポイント増加し、60.8%であった。目標値80%まで課題はあるものの、今後も継続して研修等を実施し、TTの授業が多くの学校で実践するよう取り組んでいく。

A-6の基本指標については、令和3年度から令和4年度にかけて、小学5年生は0.9ポイント減少し、2.2%となった。また、中学2年生に関しても、1.9ポイント減少し3.2%となった。児童生徒へ食事について正しい理解を深め、健全な食生活を育む判断力や望ましい食習慣を養えるよう、家庭との連携を大切にしながら、学校全体で取り組んでいく。

## 基本指標について

基本指標	(B) 週 1 回程度のスポーツ実施率
関連リンク	B 人生を豊かにするスポーツの推進
関連施策	1 ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進 2 多様化するスポーツライフの充実・発展
施策の目標・方向性	1 新しい生活様式でのライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進を図るとともに、高齢者の健康づくり及び介護予防を推進します。 2 日常的に多様なスポーツに親しみ、スポーツ習慣の定着と健康の増進を図ります。 ア 働き盛り・子育て世帯のスポーツの更なる推進 イ 総合型地域スポーツクラブに対する支援 ウ シニア・スポーツの推進 ア 健康ちば21（第2次）の推進に係る各種啓発事業 イ 情報共有システムの構築と情報発信

## 基本指標の達成度について

	計画策定時現状値(a)	今年度実績値(b)	前年度比 b/a×100	目標値(c)	目標達成率 b/c×100
	3年度	4年度		8年度	
全体	62.5	56.7	90.7%	70	81%
20～39歳	64.0	52.9	82.7%	70	75.6%
40～59歳	58.1	51.9	89.3%	65	79.8%
60歳～	81.4	77.5	95.2%	経年増加	R8評価予定

## 実績の推移(令和3年度～令和8年度)



実績(%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
全体	62.5	56.7				70
20～39歳	64.0	52.9				70
40～59歳	58.1	51.9				65
60歳～	81.4	77.5				経年増加

## 総括

様々な世代がスポーツに親しむことができるよう、10月を「スポーツ推進月間」として、県内7か所で親子体験イベントを実施したほか、神奈川県で開かれたねんりんピックに本県選手206名を派遣する等シニア・スポーツを推進した。また、県民だよりや千葉県ホームページなどを活用し、スポーツ・健康増進に係る情報発信に努めた。

指標である成年の週1回程度のスポーツ実施率は56.7%であり、令和3年度実績より5.8ポイントの低下となった。この数値はスポーツ庁による全国調査(R4.2.25発表)の実績(56.4%)とほぼ同等である。低下した要因としては、アンケートにおいて成人の3割が、新型コロナウイルス感染症が流行してから運動・スポーツを実施する頻度が減ったと回答していることから、新型コロナウイルス感染症流行による運動機会減少の影響が残っていると考えられる。また、年代別に見ると、週1日以上の実施率については40代の働き盛り世代で最も低かった。

今後、パンフレットやポスターを活用して総合型地域スポーツクラブの普及・認知度増加を図るとともに、クラブを中心とした地域コミュニティづくりと県民のスポーツ活動を支援していく。

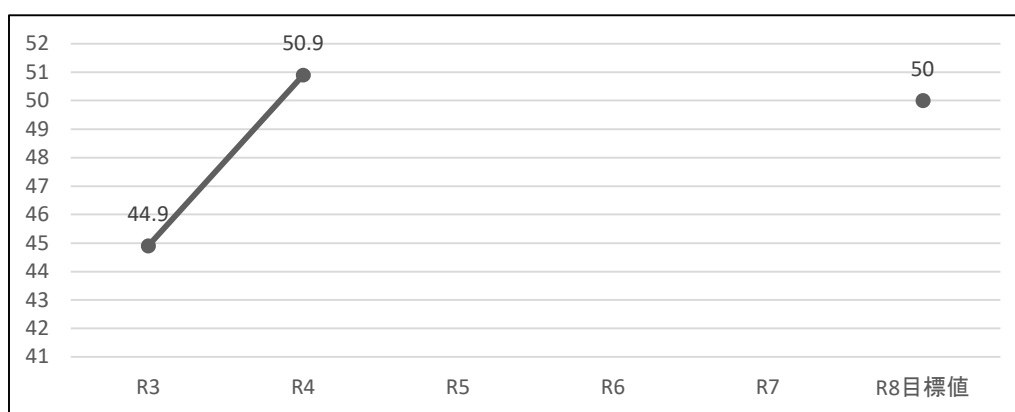
## 基本指標について

基本指標	(C-1) パラスポーツの観戦・体験率
関連リンク	C 誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進
関連施策	1 パラスポーツの推進
施策の目標・方向性	<p>パラスポーツを通じた共生社会へ向けての環境づくりを推進します。</p> <p>ア 共生社会に向けたアプローチの推進                      イ パラスポーツ参画人口の拡大                      ウ 障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進</p>

## 基本指標の達成度について

計画策定時現状値(a)	今年度実績値(b)	前年度比 $b/a \times 100$	目標値(c)	目標達成率 $b/c \times 100$
3年度	4年度		8年度	
44.9	50.9	113.4%	50	101.8%

## 実績の推移(令和3年度～令和8年度)



年度毎実績	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
パラスポーツの観戦・体験率(%)	44.9	50.9				50

## 総括

新規事業として県内の小中学校のうち計18校において「パラアスリート等学校訪問事業」を実施し、延べ1,370名の児童生徒が参加した。体験競技として、パラバレーボール(座位)、車いすバスケットボール、車いすラグビーの3競技をそれぞれの学校で展開した。今後は、特別支援学校にも拡充し、地域の方とともにパラスポーツを通じて障害の理解促進につなげていく。

また、令和4年9月に千葉ポートアリーナで「パラスポーツフェスタちば」(15競技・延べ3,231名参加)、12月にキッコーマンアリーナで「パラスポーツフェスタとうかつ」(5競技・延べ597名参加)を開催し、県民がパラスポーツを体験する機会を創出した。

指標となるパラスポーツの観戦・体験率は令和3年度と比べ、約7ポイント増加した。昨年度は東京2020パラリンピック競技大会が開催され、県民のパラスポーツに対する関心が高まっていること、事業によってパラスポーツに触れる機会が増えたことが観戦・体験率の増加に結びついたと考えられる。

今後は、パラスポーツ普及・啓発用の映像及びリーフレットの配布やパラスポーツフェスタをはじめとする体験会の広報等、様々な情報発信を通じて、県民のパラスポーツに対する理解を深めるとともに、障害のある人のパラスポーツに取り組む意欲の喚起を図っていく。

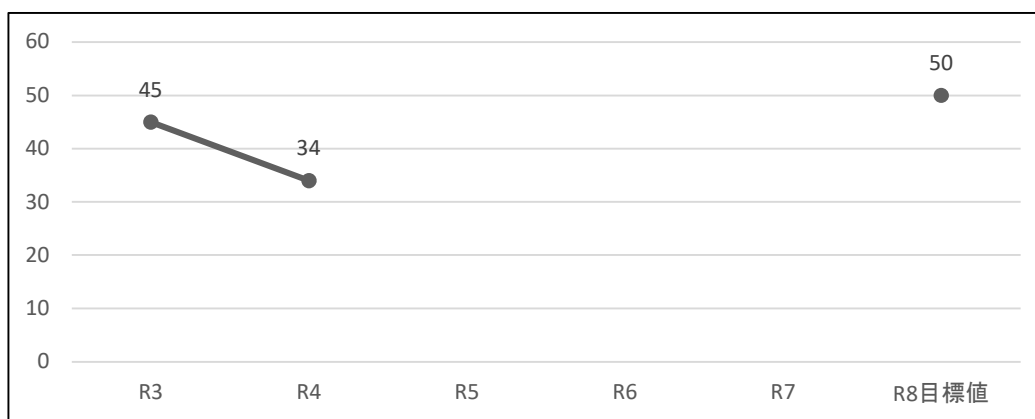
## 基本指標について

基本指標	(C-2) パラリンピック競技日本代表者数
関連リンク	C 誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進
関連施策	2 パラアスリートへの強化・支援の推進
施策の目標・方向性	<p>パラアスリートの発掘・育成及び環境整備、競技力向上への支援に努めます。</p> <p>ア パラ競技組織の体制整備の推進及びパラスポーツ選手の掘り起こしと育成 イ パラアスリートの競技力強化の推進</p>

## 基本指標の達成度について

計画策定時現状値(a)	今年度実績値(b)	前年度比 $b/a \times 100$	目標値(c)	目標達成率 $b/c \times 100$
3年度	4年度		8年度	
45	34	75.6%	50	68.0%

## 実績の推移(令和3年度～令和8年度)



年度毎実績	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
パラリンピック競技日本代表者数(人)	45	34				50

## 総括

千葉県ゆかりのパラアスリート等を指定し、継続的な競技力の向上を目指し、パラリンピック出場に向けた強化活動に対する取組へ助成を行うとともに、パラスポーツの振興、普及啓発活動のため障がい者スポーツ協会と連携し、支援体制の強化や有望選手の掘り起こしを行った。また、競技人口の増加を目的として、県内計16団体の障害者スポーツ競技団体が行う体験会に対する費用助成を行った。

指標として、パラリンピック競技の中央競技団体(NF)強化指定選手のうち、令和4年度千葉県競技力向上推進本部事業において強化指定した選手数を実績値としているが、令和3年度から11名減少した。これは新型コロナウイルス感染症の影響により、各種大会への出場を断念した選手や、選手選考の位置づけとしていた大会等が中止となり、選手選考を実施できなかった競技団体も一部あったことが、減少要因のひとつであると捉えている。

次年度は2024年パリ大会に向けて、代表選考のための国際大会等への参加増が見込まれるため、千葉県ゆかりのパラリンピックアスリートの強化活動に対しての支援人数を増員する見通しである。

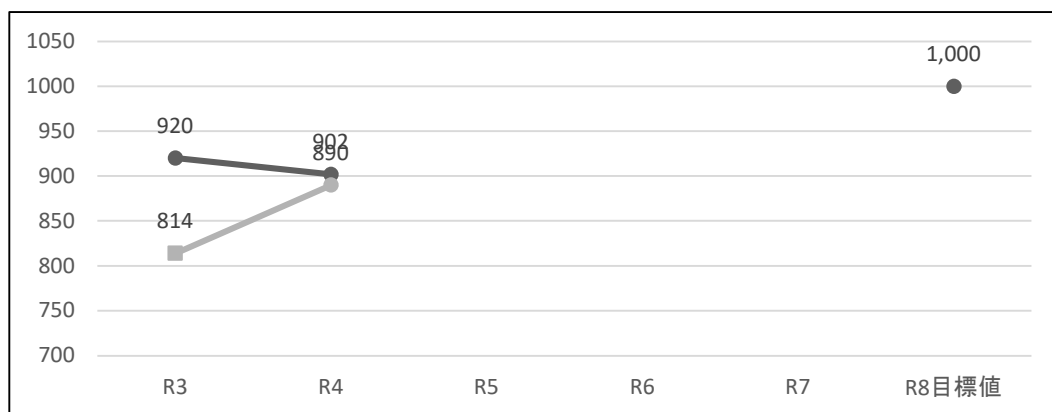
## 基本指標について

基本指標	(D-1) 公認スポーツ指導者数 (D-2) 障害者スポーツ指導者数
関連リンク	D スポーツ環境の整備・充実
関連施策	1 人材の育成
施策の目標・方向性	スポーツ指導者の養成と指導力の向上、指導者の有効活用を推進します。 ア スポーツ指導者の養成・資質の向上 イ 表彰制度の活用

## 基本指標の達成度について

	計画策定時現状値(a)	今年度実績値(b)	前年度比 b/a×100	目標値(c)	目標達成率 b/c×100
	3年度	4年度		8年度	
公認スポーツ指導者数	920	902	98.0%	1,000	90.2%
障害者スポーツ指導者数	814	890	109.3%	経年増加	R8評価予定

## 実績の推移(令和3年度～令和8年度)



実績(人)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
公認スポーツ指導者数	920	902				1,000
障害者スポーツ指導者数	814	890				経年増加

## 総括

地域のスポーツ指導者を養成するため、生涯スポーツ公認指導者養成講習を6回実施し、指導員4名、スポーツリーダー12名を養成した。また、初級障害者スポーツ指導者養成講習会を2回実施し、障害者スポーツ指導者、計66名を養成した。

指標について、公認スポーツ指導者数は少し減少した。高齢等を理由とする非更新者数が新規獲得者数を上回ったことが原因と推察される。一方、障害者スポーツ指導者数は増加した。

また、指導者の功績をたたえ、更なる活躍につながるよう、体育・スポーツ功労者等顕彰表彰において、県功労者21名、優良団体13団体、優秀スポーツ選手個人126名、27団体、特別功労賞1名が推薦された。そのうちパラスポーツ部門では、個人28名、団体27団体が初めて推薦された。

令和5年度も更なる指導者確保・指導者の質の向上を目指し、講習の受講者数を増やしていけるようホームページ等を通じて情報発信に取り組んでいく。



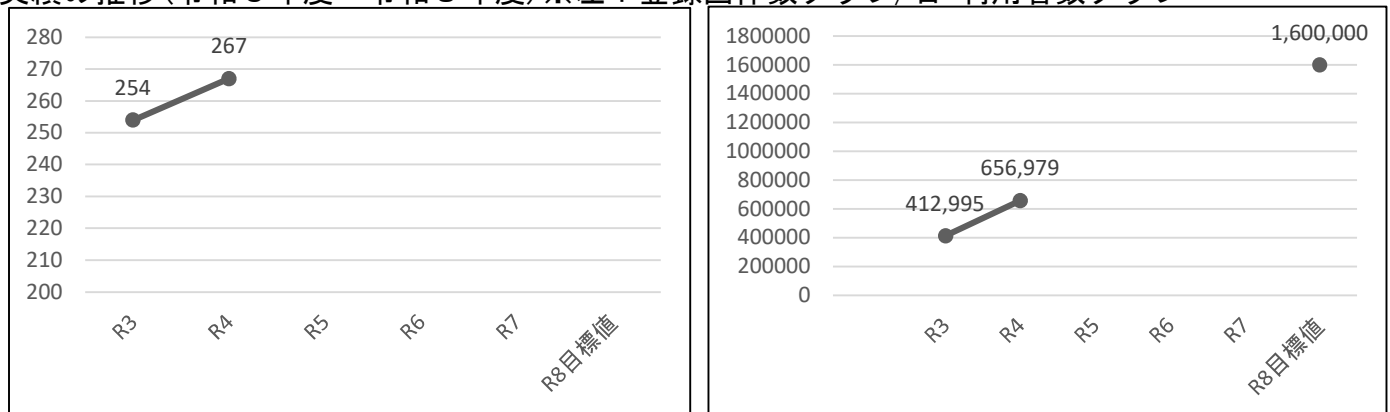
## 基本指標について

基本指標	(D-3) 県立学校体育施設開放事業登録団体数 (D-4) 体育施設年間利用者数
関連リンク	D スポーツ環境の整備・充実
関連施策	2 施設の整備と有効活用
施策の目標・方向性	耐震化・バリアフリー化の推進と老朽化施設の再整備・機能向上を図り、安全安心にスポーツができる環境を提供するとともに、県立学校体育施設の有効活用を推進します。 ア 施設・設備の整備と有効活用

## 基本指標の達成度について

	計画策定時現状値(a)	今年度実績値(b)	前年度比 $b/a \times 100$	目標値(c)	目標達成率 $b/c \times 100$
	3年度	4年度		8年度	
登録団体数	254	267	105%	経年増加	R8評価予定
年間利用者数	412,995	656,979	159.1%	1,600,000	41.1%

## 実績の推移(令和3年度～令和8年度)※左：登録団体数グラフ/右：利用者数グラフ



実績(人)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
県立学校体育施設開放事業登録団体数	254	267				経年増加
体育施設年間利用者数	412,995	656,979				1,600,000

## 総括

県有体育施設の整備と活用を目的として各事業に取り組んだ。  
 令和3年3月から実施している総合スポーツセンター野球場照明塔設置工事については、令和4年3月末に完成した。また、現在、利用を休止している体育館は、外部委託調査の結果を踏まえ現在地での建て替えが最適と判断した。  
 指標について、開放事業登録団体数については、新型コロナウイルス感染症の流行の中ではあったが、登録団体が増えた。新型コロナウイルス感染症に対する考え方の変容に伴って増加してきたものと考えられる。今後、県民のスポーツ活動がさらに回復していくことが予想され、学校体育施設開放の需要がさらに見込まれると考える。  
 一方、県立体育施設の年間利用者数は、昨年実績から増加したものの、新型コロナウイルス感染症流行前の水準までは回復していない。  
 今後、県民のスポーツ活動がさらに回復していくことが予想され、学校体育施設開放の需要がさらに見込まれると考える。このことから、本県の競技力向上の拠点となるスポーツ施設としての県有体育施設の整備と活用をさらに進めていく。特に体育館については、令和10年度中の供用開始に向け整備を進めていく。

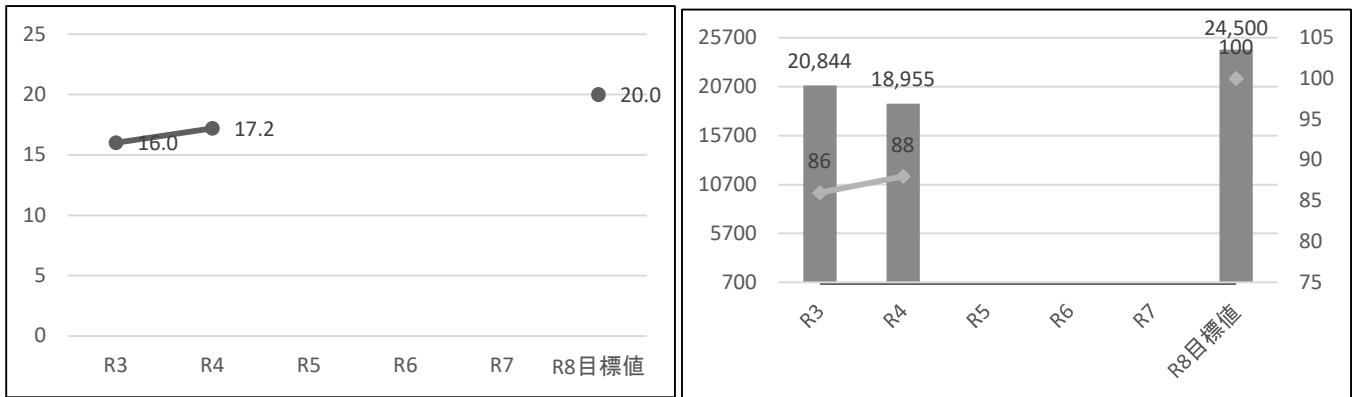
基本指標について

基本指標	(D-5) 総合型地域スポーツクラブ認知度 (D-6) 総合型地域スポーツクラブ数 (D-7) 総合型地域スポーツクラブ会員数
関連リンク	D スポーツ環境の整備・充実
関連施策	3 誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展
施策の目標・方向性	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展を図ります。 ア 総合型地域スポーツクラブに対する支援 イ 情報共有と発信の推進 ウ 体育・スポーツ関係団体との連携・協同

基本指標の達成度について

	計画策定時現状値(a)	今年度実績値(b)	前年度比 b/a×100	目標値(c)	目標達成率 b/c×100
	3年度	4年度		8年度	
認知度(%)	16	17.2	107.5%	20	86%
クラブ数	86	88	102.3%	100	88%
クラブ会員数	20,844	18,955	90.9%	24,500	77.4%

実績の推移(令和3年度～令和8年度)※左：認知度グラフ/右：クラブ数及び会員数グラフ



実績	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
認知度(%)	16.0	17.2				20.0
総合型地域スポーツクラブ数	86	88				100
総合型地域スポーツクラブ会員数	20,844	18,955				24,500

総括

総合型地域スポーツクラブ設立支援のために市町村を訪問するとともに、12月3日に情報交換会を開催し、自立活性化支援を行った。また、千葉県スポーツ協会、千葉県障がい者スポーツ協会をはじめとする各スポーツ関係団体と情報共有を行い、連携を図った。

基本指標について、認知度及びクラブ数は微増、クラブ会員数は減少という結果が見られた。認知度は昨年と比べて1.2ポイントの増加であり、年代別に見ると、60代で認知度が比較的高い傾向にある。また、クラブ数は2クラブが新規設立となった。一方、クラブ会員数は減少傾向にある。要因としては会員の高齢化及び新型コロナウイルス感染症流行による運動機会減少の影響が関係していると考えられる。

令和5年度は、総合型地域スポーツクラブについて県民が最新のデータを入手できるよう、QRコード等を掲載するなど工夫をした新たなパンフレットやポスター等を作成し、クラブ認知度向上・新規設立のため、支援・調整を図っていく。

## 基本指標について

基本指標	(E-1) 国体入賞 (E-2) トップ・アスリートの派遣回数
関連リンク	E 競技力の向上とスポーツ・インテグリティの確保
関連施策	1 選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上 5 競技スポーツの充実及び好循環 等
施策の目標・方向性	個々の選手及びチームの競技力向上を推進します。 各競技会の充実と競技人口の拡大を図るとともに、トップアスリート等の能力活用を推進します。 等 1-ア 国民体育大会入賞に向けた選手強化 1-イ 未来のアスリートの発掘・育成・強化 5-イ トップアスリート等活用事業 等

## 基本指標の達成度について

	計画策定時現状値(a)	今年度実績値(b)	前年度比 b/a×100	目標値(c)	目標達成率 b/c×100
	3年度(R1実績)	4年度		8年度	
国体入賞	7	7	±0	入賞	R8評価予定
トップ・アスリートの派遣回数	19	32	168.4%	(累計) 95	33.7%

## 実績の推移(令和3年度～令和8年度)※左：国体順位グラフ/右：派遣回数グラフ



実績(人)	R3(R1実績)	R4	R5	R6	R7	R8目標値
国体入賞	7	7				入賞
トップ・アスリートの派遣回数	19	32				95

## 総括

県の競技力向上を図り、国民体育大会において男女総合成績入賞、女子総合成績入賞を目指し、本県国体代表チーム・選手の強化事業を実施した。また、競技力向上と地域スポーツの好循環を創出するため、トップアスリート等活用事業により、オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより、選手強化事業の成果を地域スポーツに還元する取組を実施した。

第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」では、男女総合成績(天皇杯得点)において獲得点1490.75点で第7位入賞を果たした。しかし、女子総合成績(皇后杯得点)では、獲得点786.5点で第10位と入賞を逃す結果となった。

トップアスリート等活用事業では、派遣回数32回、延べ47名の講師を派遣し、派遣回数は昨年度実績から大きく増加した。特に小中学校からの希望が多く、児童・生徒は、講演会や特別授業等を通じたトップアスリートとの交流にとっても喜び、教職員からの評価も高く充実した事業となった。

令和5年に開催される特別国民体育大会では、男女総合成績(天皇杯得点)及び女子総合成績(皇后杯得点)で入賞を果たせるよう、本県競技力の向上を図るとともに、県内トップアスリート等のスポーツ資源の還元に取り組んでいく。

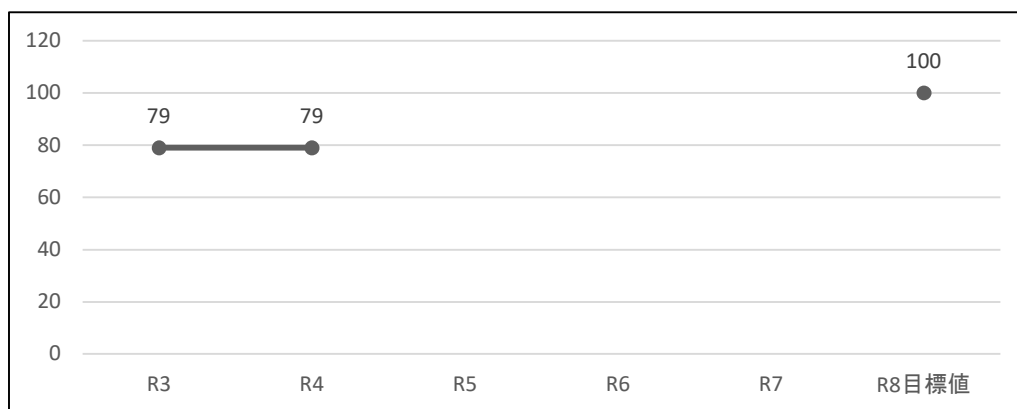
## 基本指標について

基本指標	(F-1) トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合
関連リンク	F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり
関連施策	1 アスリートと連携したスポーツの価値の推進
施策の目標・方向性	知るから広がる「する・みる・ささえる」スポーツの更なる推進を図ります。 ア トップ・プロスポーツ連携事業 イ トップ・プロスポーツ連絡協議会

## 基本指標の達成度について

計画策定時現状値(a)	今年度実績値(b)	前年度比 $b/a \times 100$	目標値(c)	目標達成率 $b/c \times 100$
3年度	4年度		8年度	
79	79	100%	100	79%

## 実績の推移(令和3年度～令和8年度)



年度毎実績	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合(%)	79	79				100

## 総括

トップ・プロスポーツチームと連携し、県内在学の小学生を公式戦へ招待する「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」を実施し、計66,400名を招待した。また、選手・コーチを小学校へ派遣する「ちば夢チャレンジかなえ隊」事業では9チームが10校を訪れ、小学生986名が参加した。

指標であるトップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合は令和3年度から横ばいであった。

次年度は、「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」の対象を小学生から中学生・高校生へ拡充して行う予定である。また、「ちば夢チャレンジかなえ隊」において、派遣校数を10校から20校に拡充する予定である。トップアスリートと直に触れ合える貴重な機会であり事業への参加希望が多く、ニーズの高さが伺えるので、実施地域を広げ、スポーツの普及振興につなげていく。

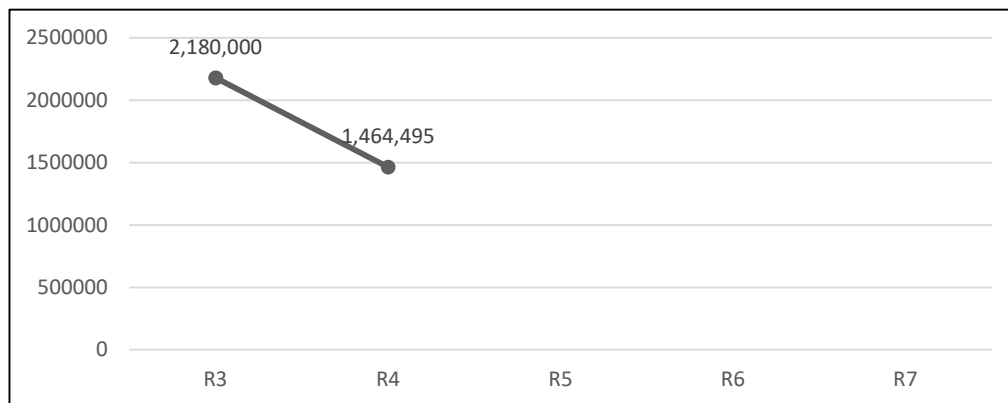
## 基本指標について

基本指標	(F-2) スポーツ情報への関心度（県HPのヒット回数）
関連リンク	F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり
関連施策	2 地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信
施策の目標・方向性	地域資源を活用したスポーツの振興とともに、健康づくりや体力向上の機運の醸成と、ライフステージに応じた運動習慣の定着を図ります。 ア 交流機会の創出 イ 積極的な関わりの促進

## 基本指標の達成度について

計画策定時現状値 (a)		前年度比 b/a×100	目標値 (c)	目標達成率 b/c×100
3年度	4年度		8年度	
2,180,000	1,464,495	67.2%	経年増加	R8評価予定

## 実績の推移(令和3年度～令和8年度)



年度毎実績	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
県HPのヒット回数	2,180,000	1,464,495				経年増加

※R4. 11月末時点

## 総括

東京湾アクアラインと新しいまちづくりが進む周辺地域、豊かな農産物を含む田園地帯など、千葉の魅力を盛り込んだコースで、令和4年11月6日に「ちばアクアラインマラソン2022」を開催した。公式ホームページやSNSを活用し、積極的に情報発信を行うとともに、ランニングクリニック教室や募集PRイベントを実施した。大会は天候にも恵まれ、約15,000人のランナーが東京湾アクアライン上を駆け抜けた。また、大会へは地元自治会、企業、学生等から約5,000人のボランティアが参加した。

基本指標は県ホームページにおけるスポーツ情報へのアクセス数であるが、今年度県スポーツ・文化局のホームページを新規に構成し、運動・スポーツ関連コンテンツの統合・整理を行った。スポーツに関する情報を「見つけやすく」・「わかりやすく」提供するため、コンテンツの充実を図り、最新情報が常に提供できるよう更新作業を進めている。

次年度は次回の「ちばアクアラインマラソン」開催に向けて、運営方法の検討や大会開催の広報等を実施していく。

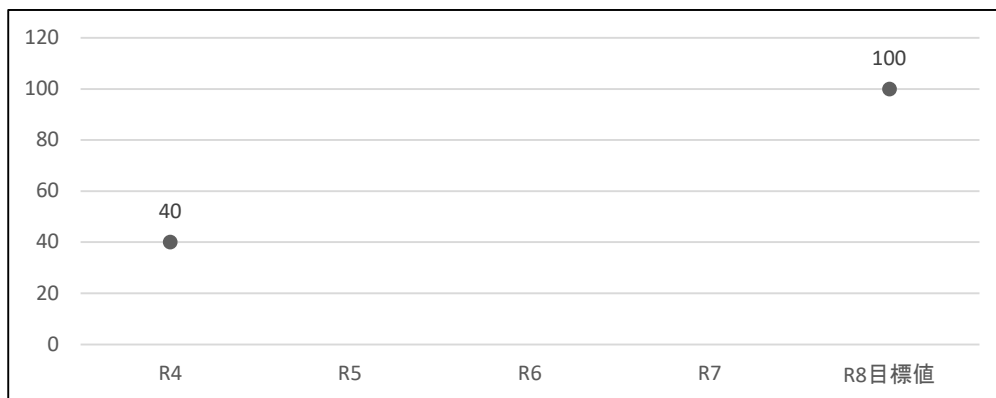
## 基本指標について

基本指標	(F-3) 競技団体等と連携した学校訪問数
関連リンク	F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり
関連施策	3 オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展
施策の目標・方向性	<p>オリンピック・パラリンピックの無形のレガシーを継承するとともに、オリンピック・パラリンピックのレガシーを有効活用した地域の活性化を推進します。</p> <p>ア オリンピック・パラリンピック教育の継承                      イ 競技団体等との学校における連携事業                      ウ ホストタウン相手国等との国際理解・国際交流の促進                      エ マリンスポーツを活用した地域の魅力向上                      オ 「新たなスポーツ」の周知・研究</p>

## 基本指標の達成度について

計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 $b/a \times 100$	目標値 (c)	目標達成率 $b/c \times 100$
3年度	4年度		8年度	
-	40	/	100	40%

## 実績の推移(令和3年度～令和8年度)



年度毎実績	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
競技団体等と連携した学校訪問数	-	40				100

## 総括

オリンピック・パラリンピックのレガシーを有効活用し、スポーツを通じて地域活性化を推進するための心のバリアフリー教育推進事業、パラスポーツ推進事業等、様々な事業に取り組んだ。新規事業としては、サーフィンと歴史・文化・食の魅力を組み合わせたスポーツツーリズムのモデルルート作成、「新たなスポーツ」としてバーチャルサイクリングやモルック等の体験会等を実施した。

指標である競技団体と連携した学校訪問数は第13次計画から新規に設定した指標であり、令和8年までに累積100校を目標としている。今年度は競技団体及び日本オリンピック委員会(JOC)と連携し、県内公立小中学校計40校において学校訪問を実施した。アスリートを講師として招き、体験談を聞いたり、実際に競技を体験したりすることを通じて、児童生徒はスポーツに親しみ、楽しんでいる様子が多く見られた。

今後も様々なスポーツについて学校訪問・体験会・スポーツツーリズム等を通じて知る機会を創出し、普及推進を進めるとともに、スポーツを県民にとってより身近なものとするよう取り組んでいく。

## 4 各施策に係る具体的な取組の進捗について

**リンクA** 子供の体育・スポーツ活動の充実と体力の向上

**施策1** 幼児期における運動遊びの充実

**目標** 楽しく体を動かす遊びを通して、運動習慣の基盤を作り、運動能力の基礎を培います。

取組 通番	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	保護者への啓発及び情報提供	家庭教育リーフレットの配付	(930)	生涯学習課	学校・家庭・地域連携室	基本的な生活習慣の確立や運動・読み聞かせの重要性等、家庭教育や子育てのポイントをまとめた「家庭教育リーフレット」(幼児版)を作成し、1歳半児健診の場などを活用し、幼児をもつ保護者に配布します。市町村に、リーフレットを配布する際の活用例を示すとともに、幼稚園・保育所の職員にも周知し、幼稚園・保育所での活用を促進します。
		ホームページでの情報提供	-	生涯学習課	学校・家庭・地域連携室	県ホームページの「親力アップ！いきいき子育て広場」で市町村が発信するイベント情報を掲載
イ	指導者(保育者)への研修	「幼児期運動指針」を踏まえた指導者(保育者)の研修の推進	(5,265)	学習指導課	義務教育指導室	幼児期における運動遊び等について、文部科学省の「幼児期運動指針」を研修において活用し、指導者(保育者)の理解や資質・能力の向上を図ります。
		幼児教育アドバイザーを活用した研修の推進	(4,242)	学習指導課	義務教育指導室	元園長等からなる幼児教育アドバイザーを県総合教育センターに配置し、研修会での講師を務めたり、園へ出向いて指導・助言を行ったりすることで、県全体の幼児教育の質向上や、幼保小接続の円滑化を図ります。



取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
基本的な生活習慣の確立や運動・読み聞かせの重要性等、家庭教育や子育てのポイントをまとめた「家庭教育リーフレット」(幼児版)を作成し、1歳半児健診の場などを活用し、幼児をもつ保護者に配布しました。市町村に、リーフレットを配布する際の活用例を示すとともに、幼稚園・保育所の職員にも周知し、幼稚園・保育所での活用を今後も促進します。	・「家庭教育リーフレット」(幼児版)42,000部配布 ・ホームページ掲載				
県ホームページの「親力アップ！いきいき子育て広場」で市町村ごとの地域情報を更新することができました。年度当初の市町村関連の情報については、特に速やかに更新することで県民への周知に努めます。	・ホームページの適宜更新				
幼児期における運動遊びの充実及び指導者(保育者)の理解や資質・能力の向上を図るために、研修会等において「幼児期運動指針」を活用した運動遊びや活動、園における環境づくり等が行われるよう指導しました。また、室内でも実施できる運動系のモデルプログラムを開発し、県内全ての幼児教育施設に対し、園の実態に合わせて実践することや園内研修での活用について周知しました。	幼稚園等初任者研修、中堅教諭等資質向上研修Ⅰ(幼稚園教諭等)、幼児教育アドバイザー育成研修、スマイル先生！若手指導力アップ研修など 「接続期のカリキュラム 千葉県モデルプラン」への室内でも実践できる運動系のモデルプラン追加				
幼児教育の質向上及び幼保小接続の円滑化を図るために、総合教育センターに配置した幼児教育アドバイザーが、研修会の講師を務めたり、園に出向いて指導・助言をおこなったりしました。令和4年度は、教育事務所訪問への同行要請や、保育所からの派遣要請も新規に増えました。	総合教育センターに5名配置(常勤2名、非常勤3名)年間80回以上派遣見込み				

**リンクA** 子供の体育・スポーツ活動の充実と体力の向上  
**施策2** 学校体育活動の充実  
**目標** 教科体育・体育的活動の指導力の向上及び、個々の発達段階を踏まえた支援の充実と指導内容の明確化を図ります。

取組 番号	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	体育の授業 改善と指導 者の指導力 向上	千葉県学校体育 研究大会	100	保健体育 課	学校体育 班	学習指導計画や体育指導法の改善・充実に資するため、研究大会を開催し、学校体育指導上の問題点について研究協議等を行い、体育指導の質的改善を目指します。
		各種研修会	-	特別支援 教育課	教育課程 指導室	特別支援学校体育連盟による研修会を実施し、パラスポーツ・体育の授業内容について、特別支援学校の教師間で研究したり、専門家からの助言を受けたりします。
		学校体育研究指 定校事業	324	保健体育 課	学校体育 班	学校体育指導の改善・充実に資するため、学校体育に関する教育内容、教育方法等を課題として調査研究を実施します。
イ	トップ・プロ スポーツの 活用	ちば夢チャレ ンジかなえ隊派遣 事業	550	生涯ス ポーツ振 興課	生涯ス ポーツ室	体育・スポーツ活動での交流を通じて、広く子どもたちにスポーツの楽しさを体験させることを目的として、県内トッププロスポーツ団体に所属する選手、コーチ等を県内の小中学校へ派遣し、スポーツ教室や講演会等を実施します。
ウ	パラスポ ーツを通じた 学校間交流	特別支援学校に おけるパラス ポーツ推進事業	(109)	特別支援 教育課	教育課程 指導室	特別支援学校教員及び児童生徒が、近隣の小・中学校や高齢者施設等に出向き、パラスポーツを紹介したり、一緒に試合を行ったりすることで、共にスポーツを楽しむ経験を通じた障害への理解を深めます。
エ	個々の発達 段階に応じ た支援の充 実と指導内 容の明確化	特別支援学校に おけるパラス ポーツ推進事業	267	特別支援 教育課	教育課程 指導室	県立特別支援学校全体でパラスポーツを推進していけるよう、新設校に他校と同等程度のパラスポーツ用具の整備を行います。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
令和4年11月18日に、全体会を船橋アリーナで、分科会を船橋市立七林小学校、船橋市立行田中学校、県立船橋啓明高等学校で実施しました。県内より、362名の学校体育関係者が参加し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について研究協議することができました。 今年度よりコロナ禍以前の参集型の大会に戻しましたが、例年と比較して参加者が少ない状況でした。教育事務所、市町村教育委員会を通じて、積極的な参加を呼びかけていきます。	船橋市開催 船橋市立七林小学校 船橋市立行田中学校 県立船橋啓明高等学校				
授業改善と指導者の指導力向上のため、特別支援学校の教員を対象に、パラスポーツや誰もが楽しめる活動をおとした授業づくりをテーマとした研修会を2回実施しました。	研修会を年2回開催				
令和4年度で3年間の継続研究を終える長南町立長南小学校は、11月に授業公開を行い東上総教育事務所管内にその研究成果を広めることができました。このことを広く周知するために、研究成果の概要を千葉県ホームページにて掲載します。 今年度は、新規に松戸市立松戸高等学校を指定し、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育学習の充実」について研究します。実りある研究になるよう、計画的に準備を進めていきます。	(継続) 長南町立長南小学校 (新規) 松戸市立松戸高等学校				
県内トップ・プロスポーツ団体に所属する選手、コーチ等を県内の小学校10校へ派遣し、競技種目の特徴やルール、などを知り、プログラムを体験することで、運動のきっかけづくりを創生できました。 課題としては希望校の倍率が10倍以上のため、ニーズに対応できていない点が挙げられます。	県内の小中学校10校で「ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業」を実施				
県立特別支援学校5校の教員及び児童生徒が、近隣の小・中学校等に出向き、パラスポーツをおとした学校間交流を行いました。今後も出前授業の実施を促進するため、市町村の小・中学校等へ周知していきます。	パラスポーツ推進のための出前授業				
県立特別支援学校全体でパラスポーツを推進するため、今年度開校した東葛の森特別支援学校に、ボッチャ及びゴールボールの用具を整備しました。今後、交流及び共同学習や地域への貸出し等に活用します。	パラスポーツ用具の整備				

リンクA 子供の体育・スポーツ活動の充実と体力の向上  
 施策3 児童生徒の体力の向上  
 目標 児童生徒の体力の向上に努めるとともに、運動の習慣化を推進します。

取組 番号	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	体育の授業改善、教師の指導力向上	体力・運動能力調査の実施	500	保健体育課	学校体育班	公立学校(定時制を除く)の全ての児童生徒を対象に、体力・運動能力を調査し、統計分析を行い、体力向上に向けた取組の基礎資料とします。また、スポーツ庁実施の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(県内小学校5年生、中学校2年生対象)の千葉県データを統計分析し、体力・体力向上に向けた取組の基礎資料とします。
イ	児童生徒に対する体力向上の啓発	運動能力証の交付	364	保健体育課	学校体育班	体力・運動能力調査に基づき対象者に運動能力証を交付して運動の意欲化を図ります。 (対象者)公立小学校5年から高校生のうち、各年齢の総合評価基準表のA段階の児童生徒。
ウ	運動の日常化	いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の実施	36	保健体育課	学校体育班	6つの運動種目を紹介・取組を奨励して、人間関係の構築と運動習慣の定着を図ります。 ランキング1位や取組が積極的な学校などを表彰し、成績をHP等で紹介し、参加意欲の向上を図ります。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
今年度は、学校生活における行動制限の緩和等が進み、新体力テストの全8種目に取り組むことができました。しかし、体力合計点は全国平均を上回っているものの、昨年度と比較すると低下した。まだコロナ禍の影響が強く残っているものと考えられます。	各校において4～11月に実施				
体力・運動能力調査の結果により、総合評価A段階の児童生徒に対して運動能力証を交付予定です。交付数に関しては、昨年度と同程度になる見込みですが、コロナ禍以前と比較すると減少が顕著でした。	体力・運動能力調査に基づき、1月に交付予定				
今年度は、昨年度に引き続きコロナ対応版での実施となり、各期大賞、年間大賞は行いませんでした。体力低下が課題となっていることから遊・友スポーツランキングちばを広く周知することで、楽しく体を動かす機会を確保していきます。	4～2月実施 前期4～6月 中期7～11月 後期12～2月 各期において表彰				

リンクA 子供の体育・スポーツ活動の充実と体力の向上  
 施策4 スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討  
 目標 生徒の興味関心・ニーズに応じた活動及び、地域と連携した部活動の推進を図ります。

取組 通番	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	地域部活動 への段階的 な移行	地域部活動推進 事業	(4270)	保健体育 課	学校体育 班	令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組みます。拠点校において実践研究を実施し、研究成果を普及することで、地域部活動の展開につなげます。
イ	外部指導者 の派遣	スポーツエキ スパート活用事業	3,674	保健体育 課	学校体育 班	スポーツの楽しさや達成感等を生徒が体験する機会を豊かにし、スポーツに親しむ基礎を培うため、県立学校の運動部活動に専門的な指導力を備えた外部指導者を派遣します。
		部活動指導員配 置事業	(34000 )	保健体育 課	学校体育 班	スポーツ、文化、科学等に関する部活動に係る技術的な指導に従事する部活動指導員を、希望する中学校へ配置します。平成30年度のモデル事業の結果を踏まえ、令和元年度から部活動指導員の正式な配置を行っています。
ウ	講習会等の 充実	中・高等学校運 動部活動指導者 講習会	32	保健体育 課	学校体育 班	運動部活動指導者の養成及び資質の向上を図るための講習会を実施します。
エ	運動部活動 中の事故防 止の徹底	安全で充実した 運動部活動のた めのガイドライ ンの活用	-	保健体育 課	学校体育 班	各学校において、運動部活動に対する意識改革を促します。練習時間の在り方や休息の取り方等、多方面から検証した、科学的トレーニングの積極的な導入等により、短時間で効果の得られる合理的でかつ効率的・効果的な指導を目指します。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
令和3年度からの取組により、地域スポーツクラブ活動の運営団体との連携の在り方、費用負担の在り方、課題が整理されました。7月、11月には、全市町村に対して説明会を実施し、県内各地域で共有することができました。また、本事業の成果として、柏市では令和5年度から全市展開へ、袖ヶ浦市では更なる実施種目の拡大へと繋がりました。 令和5年度は、実証事業として対象市町村を拡充し、より広範囲で地域移行を推進します。	(継続) 柏市・睦沢町 (新規) 袖ヶ浦市・白子町				
予定していた人数を派遣することができ、配置校の生徒は外部指導者から専門的な指導を受け、充実した内容となりました。 希望校すべてには配置できませんでしたので、拡充に向けて検討をしていきます。	40校に、計40人派遣				
令和4年度については、運動部及び文化部で67名の指導員を配置しており、教員の多忙化対策や指導体制の充実において効果が得られています。 各市町村の予算や人材の確保が課題となっています。	5月現在 73名配置予定				
部活動指導の経験の少ない受講生の先生方が、緊急時対応や応急処置の理論と方法を学ぶことができました。受講生からのアンケートでは、「是非年度初めに受講したい内容である」という意見が複数あるので、開催時期について考慮していきます。	11月8日(火)開催 100名参加予定				
体育主任研修会や小中学校体育連盟、高等学校体育連盟、高等学校野球連盟等の会議において、部活動ガイドラインを遵守した活動の徹底について周知をしました。	体育主任、関係団体等の会議で周知				

リンクA 子供の体育・スポーツ活動の充実と体力の向上  
 施策5 心身の健全な発達を支える食育の推進  
 目標 発達段階に応じた食育を推進します。

取組 番号	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	食に関する指導のあり方についての研修・研究協議	食に関する指導事業	(50)	保健体育課	給食班	県内5つの教育事務所ごとに、関係職員を対象とした食に関する指導のあり方等の研修を行います。 内容は、「学校における食育の推進(第4次千葉県食育推進計画)」「アレルギー対応・衛生管理について」説明を行っていきます。
		地域における食育指導推進事業	(478)	保健体育課	給食班	教育事務所ごとに、食育指導推進連絡協議会を設置し、各地区にいる食育指導推進委員である栄養教諭・学校栄養職員が、地域の関係者等を対象とした授業公開や指導助言を行う体制を整え、実施します。また併せて、年3回の全体連絡協議会を推進委員を集めて開催し、実践状況や課題等について協議し、指導力の向上を図ります。
イ	地域と連携した学校給食・食育活動支援	高等学校と連携した食育活動支援事業	(999)	保健体育課	給食班	農業・水産系高等学校を支援校として、支援校のある地域の幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校から参加校を選定し、農作業や飼育されている動物と触れ合うなどの体験活動を展開する。また、高校生と園児や小中学生の交流を通して、それぞれの発達段階に応じた千葉県ならではの食育活動を支援します。
		学校給食における千産千消デーの取組	—	保健体育課	給食班	公立学校の給食実施校で「千産千消デー」を設定し、県内・域内地場産物を活用した学校給食を提供するとともに、それを生かした食育を推進します。
ウ	食育の啓発と情報提供	(食育の啓発と情報提供)	—	保健体育課 (安全農業推進課)	給食班 (食育推進班)	「食」に関する情報を積極的に保護者に提供し、家庭と連携した食育の推進を図ります。



取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
<p>成果としては、県内5つの教育事務所管内の関係者を集め(南房総教育事務所管内はオンライン形式による協議会)、食に関する指導とアレルギー対応及び衛生管理についての説明を行い、周知を図ることができました。課題としては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、招集する人数を制限した形で実施したため、オンライン形式を活用するなどの工夫を検討していきます。</p>	<p>葛南地区(令和4年8月1日)東葛飾地区(令和4年10月18日)北総地区(令和4年10月28日)東上総地区(令和4年10月4日)南房総(令和4年10月25日)</p>				
<p>8人の推進委員が、それぞれの所属先の小中学校で授業公開を実施しました(八千代市、浦安市、松戸市、柏市、印西市、東庄町、九十九里町、市原市)。各校では、近隣から参観者を募り、食に関する指導を通して実践力向上を図りました。</p>	<p>16人いる推進委員のうち、8人が授業公開を実施</p>				
<p>支援校である高等学校の圃場を活用し、米や野菜などの作付けから収穫までを高校生と小中学生とが交流しながら活動することができました。また、高校生が参加校に出向き、収穫した野菜の調理実習を共に行うなど、年間を通じて体験活動を展開することができました。課題としては、作付けから収穫までのそれぞれが天候に左右されるため、予定を変更せざるを得ないことがあり、年度初めの段階でより計画的に進められるようにしていきます。</p>	<p>県立下総高等学校、県立茂原樟陽高等学校を支援校に、成田市立下総みどり学園、茂原市立茂原小学校、茂原市立萩原小学校が参加校として実施</p>				
<p>各市町村内にある単独調理場、共同調理場及び関係県立学校の650施設で千産千消デーが実施されました。</p>	<p>約650施設で実施</p>				
<p>各学校、調理場から「食」に関する情報を給食だよりや食育だより、ホームページ等を活用しながら保護者に対して提供しました。</p>	<p>各学校における学校だよりや給食だより等の発行をはじめ、食育の啓発に関する情報を各自自治体からも発信</p>				

**リンクB** 人生を豊かにするスポーツの推進  
**施策1** ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進  
**目標** 新しい生活様式でのライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進を図るとともに、高齢者の健康づくり及び介護予防を推進します。

取組 番号	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	働き盛り・子育て世帯のスポーツの更なる推進	「スポーツ推進月間」の実施	350	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	働き盛り・子育て世代が、スポーツに親しみ、運動習慣の定着を図るきっかけとなることを目的として、9月から12月を「スポーツ推進月間」と定め、親子を対象とした体験講習会やスポーツ教室等を総合型スポーツクラブと近隣小学校等が連携して実施します。
		ライフステージに応じたスポーツの情報発信	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	ライフステージに応じたスポーツの推進のため、対象者に合ったスポーツの取組みや各種イベント等の情報を「見つけやすく」「わかりやすく」発信します。
イ	総合型地域スポーツクラブに対する支援	(総合型地域スポーツクラブに対する支援)	567	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	総合型地域スポーツクラブや市町村の課題を捉え、ニーズに合った形態での集会・研修会を開催し、設立支援・自立活性化支援を行います。また、運営協議会では、広域スポーツセンター事業の課題について検討し、総合型地域スポーツクラブを中心とした地域コミュニティづくりと県民のスポーツ活動の推進を図ります。
ウ	シニア・スポーツの推進	老人クラブでのシニアスポーツ推進	(6800)	高齢者福祉課	地域活動推進班	千葉県老人クラブ連合会が実施する事業に対して助成するとともに、市町村の老人クラブ連合会や個々の老人クラブの活動を支援するために市町村への間接補助を行います。 県老人クラブでは、シニア・スポーツとして、ゲートボールやグランドゴルフ等のスポーツ大会の地区予選及び県大会を県内約10ヶ所で開催し、優秀な成績を修めた人を、全国健康福祉祭(ねんりんピック)に派遣する県の代表として推薦します。
		ねんりんピックへの選手団派遣	(12578)	高齢者福祉課	地域活動推進班	令和4年度の全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、第34回 神奈川大会で、11月12日～11月15日までの4日間開催されます。世代間・地域間の交流を深め、本県の高齢者スポーツを推進します。
		千葉県福祉ふれあいプラザにおける介護予防に資する運動の場の提供	(93700)	高齢者福祉課	地域活動推進班	千葉県福祉ふれあいプラザの介護予防トレーニングセンターにおいて、高齢者も使用しやすい運動機器や専門のスタッフを配置し、利用者一人ひとりに合った運動プログラムを提供し、運動支援を行います。 また、多くの高齢者が利用できるよう、介護予防トレーニングセンターについて、ホームページやポスター等で広く周知します。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
働き盛り・子育て世代が、スポーツに親しみ、運動習慣の定着を図るきっかけとなることを目的として、8月末から11月末に「スポーツ推進月間」として、親子を対象とした体験講習会やスポーツ教室等を総合型スポーツクラブと近隣小学校等が連携して実施しました。	県内7か所で「スポーツで元気いっぱい！親子体験イベント」等を実施				
教育委員会から知事部局として移管されたことに伴い、コーナーも移され、生涯スポーツ推進のため、各種イベント等の情報を発信しています。	県民だよりや千葉県ホームページなどを活用し、スポーツイベント等の情報を発信				
総合型地域スポーツクラブや市町村の課題を捉え、12月3日に情報交換会を開催し、設立支援・自立活性化支援を行いました。設立支援として市川市や市原市、東金市、野田市を訪問しています。今後、運営協議会では、広域スポーツセンター事業の課題について検討し、総合型地域スポーツクラブを中心とした地域コミュニティづくりと県民のスポーツ活動の推進を図ります。	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会への積極的な参加・呼びかけ及び設立希望のある地域の市町村へ、クラブアドバイザー派遣等の支援を実施				
千葉県老人クラブ連合会が実施する事業に対して助成するとともに、市町村の老人クラブ連合会や個々の老人クラブの活動を支援するために市町村への間接補助を行いました。(令和5年2月以降交付見込み) 県老人クラブ連合会では、シニア・スポーツとして、ゲートボールやグランドゴルフ等のスポーツ大会の地区予選及び県大会を県内10地区で開催し、優秀な成績を収めた人を、全国健康福祉祭(ねんりんピック)に派遣する県の代表として推薦しました。	千葉県老人クラブ連合会及び市町村に対し補助金を交付 (令和5年2月以降交付見込み)				
令和4年度の全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、第34回 神奈川大会で、11月12日～11月15日までの4日間開催されました。世代間・地域間の交流を深め、本県の高齢者スポーツを推進しました。	神奈川県 32種目 令和4年11月12日～ 15日 206人参加				
千葉県福祉ふれあいプラザの介護予防トレーニングセンターにおいて、高齢者も使用しやすい運動機器や専門のスタッフを配置し、利用者一人ひとりに合った運動プログラムを提供し、運動支援を行いました。また、多くの高齢者が利用できるよう、介護予防トレーニングセンターについて、ホームページやポスター等で広く周知しました。	介護予防トレーニングセンターの運営 (令和4年度利用者:19,506人) ※令和4年12月までの実績				

**リンクB** 人生を豊かにするスポーツの推進  
**施策2** 多様化するスポーツライフの充実・発展  
**目標** 日常的に多様なスポーツに親しみ、スポーツ習慣の定着と健康の増進を図ります。

取組 番号	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	健康ちば21(第2次)の推進に係る各種啓発事業	(健康ちば21(第2次)の推進に係る各種啓発事業)	270	健康づくり支援課	地域健康づくり班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の技術指導力向上を目的として実施している「健康体づくり指導者研修会」は、より多くの専門職に参加してもらうため、オンデマンド配信等Webを活用した方法で行います。</li> <li>・日常生活の中で手軽にできる運動について、「WORK+10(ワークプラステン)」リーフレットの配布及びホームページでの啓発・普及を行います。</li> <li>・各市町村独自のウォーキングマップ及び体操についてホームページを通じた情報提供を行います。</li> </ul>
イ	情報共有システムの構築と情報発信	情報共有システムの構築	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	市町村の生涯スポーツ担当者研修会において、各地域の指導員の資質力向上、ライフステージに合わせたスポーツ実施方法等について理解を深めるとともに、各地域の好事例を共有します。また、総合型地域スポーツクラブの研修会等において、クラブの取組状況や問題点を共有し、県内における活動の活性化を図ります。
イ	情報共有システムの構築と情報発信	スポーツイベント・多様なスポーツ・スポーツ施設等の情報発信	-	生涯スポーツ振興課 競技スポーツ振興課	生涯スポーツ室、企画調整班、施設調整班	県民が様々な側面からスポーツを知ることができるよう、イベントの最新情報や家庭でできる運動実施例等について、各種媒体を通じて発信します。また、スポーツに関する情報を「見つけやすく」「わかりやすい」情報提供するため、コンテンツの充実を図り、最新情報が常に提供できるよう更新作業に努めます。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
<p>日常生活の中で手軽にできる運動について「WORK+10(ワークプラステン)」リーフレットの増刷を行い、43市町村等に対し計16,510部配布し、併せてホームページでの啓発・普及を行いました。</p> <p>また、ロコモティブシンドローム予防及びフレイル予防を普及啓発できる人材育成として、個々の身体の状態に合わせた適切な運動指導技術の向上を図るため、10月3日～11月4日にかけてオンデマンド形式にて健康・体力づくり指導者研修会の開催し、127名の申し込みがありました。</p> <p>また、各市町村独自の体操について、県ホームページに現在33市町の42種類の体操について情報提供しています。</p>	<p>・「健康・体力づくり指導者研修会」をオンデマンド配信等で実施</p> <p>・手軽にできる運動についてホームページを通じた普及・啓発を実施</p>				
<p>市町村の生涯スポーツ担当者研修会において、令和4年度から組織改編があり、生涯スポーツ振興課生涯スポーツ室の事業内容について説明しました。</p> <p>課題としては、ZOOMでの開催だったため、各市町村同士でのディスカッションができなかったことが挙げられます。</p>	<p>市町村の生涯スポーツ担当者研修会及び総合型地域スポーツクラブ養成講座において、事例等の情報共有を実施</p>				
<p>今年度は、教育委員会から生涯スポーツ振興課へ移管したことに係り、ホームページの中身の精査を行いました。スポーツに関する情報を「見つけやすく・「わかりやすい」情報提供するため、コンテンツの充実を図り、最新情報が常に提供できるよう更新作業を進めています。</p>	<p>県民だよりや千葉県ホームページなどを活用し、スポーツイベント等の情報を発信</p>				

リンクC 誰もがとにも楽しめるパラスポーツの推進  
 施策1 パラスポーツの推進  
 目標 パラスポーツを通じた共生社会へ向けての環境づくりを推進します。

取組 番号	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位: 千円)	担当課	室	各取組の概要
ア	共生社会に向けたアプローチの推進	特別支援学校におけるパラスポーツ推進事業	(652)	特別支援教育課	教育課程指導室	特別支援学校の体育施設及びパラスポーツの用具の貸出し、各地区の特別支援学校の取組状況やパラスポーツの出前授業の案内と併せて、競技方法やルール解説を掲載したパンフレットを作成し、配布します。
		パラアスリート等による学校訪問の実施	5,445	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	パラスポーツを通じて児童・生徒の障害への理解を深め、障害のある人もない人もお互いを認め合う共生社会の実現を目的として、県内の小中学校にパラアスリート等を派遣し、各種講演や体験会を実施します。
		パラスポーツフェスタの開催	6,131	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	パラスポーツを広く県民に周知し、障害のある・なしに関わらず様々な方がパラスポーツを通じて交流し、障害への理解を図るため、「パラスポーツフェスタ」を開催し、パラスポーツの体験会や対抗戦を実施します。
イ	パラスポーツ参画人口の拡大	パラスポーツ競技体験会への支援	5,200	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害者スポーツ競技団体の活性化や競技人口等の増加を図るため、各競技団体等が競技の普及のために実施する体験会等に対し助成を行います。
		市町村地域で実施する取組への支援	12,200	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	市町村や団体等が、地域の大学や障害者施設、クラブチーム等と連携し、パラスポーツ大会や体験会、教室等を主体的に取り組める体制を築くことを目的として、コーディネーターを派遣し、スポーツの場の掘り起こしや組織づくりを行うとともに、体験会等を開催できるように促します。
		指導者講習会・研修会の充実	1,875	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援し、健康や安全管理に配慮した指導及びスポーツの楽しさを伝える役割を担う初級障がい者スポーツ指導員を養成するため、「初級障がい者指導員養成講習会」を実施します。また、初級障がい者スポーツ指導員の有資格者を対象に、フォローアップ研修として「障がい者スポーツ指導者研修会」を実施します。
		パラスポーツの広報の強化	6,980	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県民のパラスポーツに対する理解を深めるとともに、障害のある人のスポーツに取り組む意欲を喚起することを目的として、パラスポーツ普及・啓発用の映像及びリーフレットの制作を行います。また、ちば県民だより等の県の広報ツールを活用し、パラスポーツの広報を行います。
ウ	障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進	障害者スポーツ大会等のイベント開催及び選手団の派遣	・2,000 ・9,432 ・45,754	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	・知的障害のある人とその支援者等が一堂についで、スポーツを通じて体力の増進と親睦を図り、併せて社会の人々から多くの支援と理解を得ることを目的として、玉入れ、バン喰い競走などのレクリエーション大会として、「手をつなぐスポーツのつどい」を実施します。 ・障害者スポーツの振興を図り、障害のある人の自立と社会参加の推進に寄与することを目的として、関係団体等と連携し、陸上競技を中心として、ほか11競技の千葉県障害者スポーツ大会を実施します。 ・全国障害者スポーツ大会へ千葉県代表選手団を派遣します。
		パラスポーツ組織の整備	9,800	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県内の障害者スポーツ選手を輩出するため、競技団体が少なく、既存組織を活用した選手の育成・支援が困難であること等を踏まえ、障害者が競技に参加できる環境を作り、競技体験会を実施するとともに、幅広く有望選手を掘り起こすための強化・支援を行います。
		千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンターの活用	22,405	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害のある人のスポーツ・レクリエーション活動の拠点施設として、障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の貸出を行います。また、センター独自の教養講座やセンター利用者による交流会等を実施し、障害のある人の参加機会の充実を図ります。
		千葉障がい者スポーツ指導者協議会との連携	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障がい者スポーツ指導者の活動の場づくりを推進するため、千葉県内における障がい者スポーツ指導者の統括団体である千葉障がい者スポーツ指導者協議会との連携を行います。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
パラスポーツを通じた共生社会の推進のために、県立特別支援学校の取組やパラスポーツ用具の貸出し、出前授業等を紹介するパンフレットを作成し、県内市町村や関係機関へ配布しました。	「パラスポーツ紹介パンフレット」15,000部配布				
県内公立小中学校18校に、車いすバスケットボールや車いすラグビー、パラバレーボール(座位)のアスリート等を派遣し、講演会や体験会を開催しました。アスリートとの触れ合いや競技への理解により、児童・生徒の障害への理解を深めることができました。	県内の小中学校のうち、各教育事務所管内から計18校を選定し、「パラアスリート等学校訪問事業」を実施				
「パラスポーツフェスタちば」では、15競技を実施し、延べ3,231名が参加し、「パラスポーツフェスタとうかつ」では、5競技を実施し、延べ597名が参加しました。障害のある方の参加率が低い状況にあり、今後さらに障害のある方が参加しやすいイベントとなるよう、実施方法や申し込み方法を検討していく必要があります。	9月に千葉ポートアリーナで「パラスポーツフェスタちば」、12月にキッコーマンアリーナで「パラスポーツフェスタとうかつ」を開催				
千葉県内の障害者スポーツ競技団体18団体が開催する体験会等に対して、費用の助成を行いました。	参加者数が40人以上の体験会を実施する8団体及び40人未満の体験会を実施する8団体に助成				
4市、2団体の計6か所にコーディネーターを派遣し、体験会や教室の開催の支援を行いました。コーディネーターの活用後も、市町村や団体が主体的に体験会や教室を継続して実施できるように、コーディネーターと市町村が深く関わりながら体験会や教室を実施していく必要があります。	コーディネーター派遣事業として、5障害福祉圏域、スポーツ拠点づくり支援事業として、1団体にコーディネーターを派遣				
公益財団法人日本パラスポーツ協会公認の初級障がい者スポーツ指導員を養成するため、「初級障がい者スポーツ指導者養成講習会」を9月と1月の年2回開催し、約68名を養成しました。また、障がい者スポーツ指導員をはじめ、障害のある人の活動を支える方のスキルアップのため、「障害者スポーツ指導者研修会」を5月に開催しました。	障害者スポーツ指導者養成講習会を2回、初級障がい者指導者養成研修会を1回開催				
パラスポーツ普及・啓発用の映像及びリーフレットにおいて、ポッチャ、フライングディスク、陸上、水泳、車いすバスケ、パラバドミントンの計6競技を紹介し、これからパラスポーツを始めたい方に向けて、周知を行いました。また、ちば県民だよりにおいてパラスポーツ競技団体による体験会の情報を掲載し、千葉日報特集において車いすテニス、パラ卓球、パラバレーボール(座位)の紹介を行いました。	パラスポーツ普及・啓発用映像及びリーフレットの制作				
3年ぶりに「千葉県障害者スポーツ大会」を本格開催し、11月20日時点で計2,745名が参加しました。また、4年ぶりに「全国障害者スポーツ大会(いちご一会とらぎ大会)」が栃木県で開催され8競技、136名の選手団を派遣し、個人競技の金メダル獲得が55個、銀メダルが29個、銅メダルが14個となり、金メダル獲得数は全国第4位の好成績となりました。	・5月に千葉県障害者スポーツ大会を開催 ・10月に栃木県で開催される第22回全国障害者スポーツ大会へ選手団を派遣				
東京パラリンピック及びパラリンピック後の障害者スポーツの振興、普及啓発活動のため「パラスポーツ部会」を継続設置し、支援体制の強化を図りました。また、有望選手の掘り起こしを行いました。	東京オリンピック・パラリンピック後の障害者スポーツの普及・振興のため、競技団体が実施する体験会等への助成				
障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の貸出や教養講座等を実施し、障害者の参加機会の充実に図りました。9月末時点で、体育室は8,091名(うち障害者3,217名)、多目的室は3,364名(うち障害者1,055名)、音楽室は2,096名(うち障害者1,477名)、教養文化室は1,811名(うち障害者411名)の利用がありました。	障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の貸出やセンター独自の教養講座、センター利用者による交流会等を実施				
障がい者スポーツ指導員が活動できる場所がない現状があるため、障がい者スポーツ指導員が活動でき、指導員の技能を生かせる体験会や教室をより開催していく必要があります。	5月4日に、千葉障がい者スポーツ指導者協議会と共催で、「千葉県障がい者スポーツ指導者研修会」を開催				

リンクC 誰もがとに楽しめるパラスポーツの推進  
 施策2 パラアスリートへの強化・支援の推進  
 目標 パラアスリートの発掘・育成及び環境整備、競技力向上への支援に努めます。

取組 通番	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	パラ競技組 織の体制整 備の推進及 びパラス ポーツ選手 の掘り起こ しと育成	パラ競技組織の 支援体制の充実	9,800	生涯ス ポーツ振 興課	生涯ス ポーツ室	C-1「パラスポーツ組織の整備」に記載
		競技人口の増加 に向けた取組	5,200	生涯ス ポーツ振 興課	生涯ス ポーツ室	C-1パラスポーツ競技体験会への支援」に記載
イ	パラアス リートの競 技力強化の 推進	合宿・遠征等へ の強化・支援	(30,450 )	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	海外・国内の遠征や強化合宿、競技用具の整備、ジュニアショナルチームの選考会や全国大会への派遣、運動能力測定や医療費助成、ドクターやトレーナーの派遣等の医・科学サポート等、パラリンピック出場に向けた強化活動を支援します。



取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
<p>海外・国内の遠征や強化合宿、競技用具の整備、ジュニアナショナルチームの選考会や全国大会への派遣、運動能力測定や医療費助成、ドクターやトレーナーの派遣等の医・科学サポート等、パラリンピック出場に向けた強化活動を支援しました。</p>	<p>強化指定による支援            ・選手：72名            ・チーム：11チーム</p>				

リンクD スポーツ環境の整備・充実

施策1 人材の育成

目標 楽しく体を動かす遊びを通して、運動習慣の基盤を作り、運動能力の基礎を培います。

取組 通番	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	スポーツ指 導者の養 成・資質の 向上	指導者養成講習 会の実施	2,039	生涯ス ポーツ振 興課	生涯ス ポーツ室	地域のスポーツ指導者養成を目的として、生涯スポーツ公認指導員やス ポーツリーダー、クラブマネージャー、公認障害者スポーツ指導者の講習 会等を実施します。 研修会においては、新しい生活様式における安心安全なスポーツの楽しみ 方や「する・みる・ささえる」スポーツを更に推進していくため、スポーツの価 値を伝えることの重要性を発信します。
		指導者の資質の 向上の推進	-	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	各競技団体や関係機関と協力しながら、指導者の養成・確保が促進される よう組織的な取組を行います。また、スポーツ・インテグリティの推進・促進 のために、若手指導者の資質向上を目的とした、若手指導者養成研修を 支援します。
イ	表彰制度の 活用	要項や受賞者紹 介等、表彰制度 の周知	356	生涯ス ポーツ振 興課	生涯ス ポーツ室	スポーツ分野において、スポーツの振興を図り、県のスポーツの普及発展 に顕著な功績を収めた者や各種大会において優秀な成績を収めた者等 について、県民栄誉賞をはじめ、知事表彰、体育・スポーツ功労者等顕彰等 で表彰します。 表彰については、表彰式の実施や千葉県ホームページへの掲載等で周知 を行います。
		千葉県知事表彰	-	生涯ス ポーツ振 興課	生涯ス ポーツ室	スポーツ振興及び県民のふるさと意識の高揚に資することを目的として、 千葉県県民栄誉賞表彰要綱に準じ、スポーツ活動を通じ、広く県民に敬愛 され、社会に明るい希望と活力を与えるとともに千葉県の名を高めることに 顕著な功績のあった者について表彰します。
		生涯スポーツ功 労者・生涯ス ポーツ優良団体 の表彰	356	生涯ス ポーツ振 興課	生涯ス ポーツ室	文部科学省において、地域又は職場におけるスポーツの健全な普及及び 発展に貢献し、地域におけるスポーツの振興に顕著な成果を上げたスポ ーツ関係者及びスポーツ団体について、都道府県ごとに決められた枠数の推 薦を行います。 表彰者が決定後、国において表彰式を実施します。
		競技力向上推進 本部表彰	-	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	国民体育大会において功績の顕著な個人又は団体を表彰します。
		いきいきちばっ 子コンテスト	-	保健体育 課	学校体育 班	A-3「いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」に記載

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
クラブマネージャー養成講習会を5月28日、6月4日、11日に実施し、8名を養成しました。生涯スポーツ公認指導員等養成講習会を7月3日、9日、10日、8月6日、7日、9月11日に行い、生涯スポーツ公認指導員4名、スポーツリーダー12名を養成しました。	・クラブマネージャー養成講習会:3回実施 ・生涯スポーツ公認指導員養成講習:6回実施				
各競技団体や関係機関と協力しながら、指導者の養成・確保が促進されるよう組織的に取り組みました。また、スポーツ・インテグリティの推進・促進のために、若手指導者の資質向上を目的とした、若手指導者養成研修を支援しました。	若手指導者養成研修会 ・参加者129名				
体育・スポーツ功労者等顕彰表彰では、功労者21名、優良団体13団体、優秀スポーツ選手個人126名、団体(チーム)27団体、特別功労賞1名が推薦されました。そのうちバラスポーツ部門では、個人28名、団体27団体が初めて推薦されました。3月末に表彰式を行う予定です。プロスポーツ分野につきましては、今後新設する「千葉県プロスポーツ等顕彰規則」での表彰を考えております。	・体育・スポーツ功労者等顕彰表彰:功労者21名/優良団体13団体/優秀スポーツ選手126名・27団体/特別功労者1名				
千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希投手が、令和4年4月10日に行われたパシフィック・リーグ公式戦において、28年ぶりの完全試合、日本プロ野球史上における13者連続奪三振新記録や19奪三振のタイ記録を達成し、社会的に大きな話題となりました。これにより、スポーツ活動を通じ、広く県民に敬愛され、社会に明るい希望と活力を与えるとともに千葉県の名を高めることに寄与したと認められるため、知事表彰を授与いたしました。	・佐々木朗希投手に知事表彰を授与				
各団体から基準を満たしている方々の推薦をいただきました。今年度につきましては、生涯スポーツ功労者5名、生涯スポーツ優良団体4団体が決定され、令和4年10月14日(金)に中央合同庁舎第7号館3階講堂において表彰式が行われました。	選考会を実施し、功労者5名、優良団体4団体を国へ推薦し受賞				
第77回国民体育大会において功績の顕著な個人及び団体を表彰しました。	・優秀競技団体14団体 ・優秀選手90名 ・優秀監督25名				

**リンクD** スポーツ環境の整備・充実  
**施策2** 施設の整備と有効活用  
**目標** 耐震化・バリアフリー化の推進と老朽化施設の再整備・機能向上を図り、安全安心にスポーツができる環境を提供するとともに、県立学校体育施設の有効活用を推進します。

取組 通番	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	施設・設備 の整備と有 効活用	総合スポーツセ ンター施設整備 事業	(152,38 7)	競技ス ポーツ振 興課	施設・調 整班	総合スポーツセンターの老朽化した庭球場クラブハウスの整備等を行います。
		総合スポーツセ ンター体育館整 備事業	(6,610)	競技ス ポーツ振 興課	施設・調 整班	体育館の建替に向け、整備検討を進めていきます。
		公園施設長寿命 化対策支援事業	未定	公園緑地 課	県立公園 室	県立都市公園の施設について、事後的な維持管理から、予防的な維持管理への転換を図るため、千葉県公園施設長寿命化計画に基づく施設の更新等を行う。
		県立学校体育施 設開放事業	2,050	生涯ス ポーツ振 興課	生涯ス ポーツ室	県民の生涯スポーツの推進及び県内のスポーツの普及・振興を図るため、県立学校の体育施設を開放し、県民に広くスポーツをする機会と場所を提供します。また、各開放校の課題・問題・要望等を把握し、「開放校が開放しやすく」「利用者相互が利用しやすい」環境を整備することにより開放を促進し、地域スポーツの推進を図ります。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
総合スポーツセンター庭球場クラブハウス解体工事を行っています。 また、多くの施設で老朽化が進んでいる為、計画的に施設の改修等を実施しております。	庭球場クラブハウス解体工事の着手				
体育館建築工事に係る基本設計業務委託契約を締結し、基本設計に着手しました。	基本設計委託契約の締結				
千葉県公園施設長寿命化計画に基づき、計画的に施設の更新を行いました。	計画に基づく施設の更新に加え、令和3年度に見直しを実施した各県立公園の長寿命化計画に基づき、県全体の長寿命化計画の見直しを実施した。				
R4は68校が開放校として事業を進めてきました。県民からのスポーツ活動の場の確保の問い合わせが多く、場の提供をにつなげることができました。一方で、教員の働き方改革がいわれている中、当事業による負担も各県立学校から声があがってきている。そのような課題を今後解決に向けて取り組んでいく必要があります。	開放希望のあった県立学校を開放校として指定し(68校)、開放事業を実施				

リンクD スポーツ環境の整備・充実  
 施策3 誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展  
 目標 誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展を図ります。

取組通番	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位: 千円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	総合型地域スポーツクラブに対する支援	(総合型地域スポーツクラブに対する支援)	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	B-1「総合型地域スポーツクラブに対する支援」に記載
		パラスポーツへの取組を推進	567	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	パラスポーツの充実・発展を図り、パラスポーツに取り組む総合型スポーツクラブの事業について、千葉県県障がい者スポーツ協会等と連携して支援します。
イ	情報共有と発信の推進	スポーツ関係団体との情報共有と情報発信の推進	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県スポーツ協会、県スポーツ推進委員連動会、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県レクリエーション協会、県障がい者スポーツ協会等との情報共有・情報発信を行うことで、連携の構築を図ります。
		県スポーツ施設指定管理団体への情報提供	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	B-2「スポーツイベント・多様なスポーツ・スポーツ施設等の情報発信」に記載
ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	千葉県スポーツ協会の充実と発展	(7,383)	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	各種事業の推進や事業成果の把握等が効率的に推進できる体制の整備・充実を、市町村や関係団体と連携して支援します。
		千葉県スポーツ推進委員連合会の充実	2,382	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	市町村教育委員会が委嘱するスポーツ推進委員等で組織される地域スポーツ推進の中核団体であり、地域住民と行政を繋ぐコーディネーターとしての役割を担っています。研究大会や指導者研修会の開催を通じて、スポーツ推進委員の資質向上等を図ります。
		学校体育団体の充実	(44230)	保健体育課	学校体育班	学校体育・スポーツの普及と振興を図るため、学校体育関係団体が行う事業に要する経費を助成します。
		千葉県レクリエーション協会の充実	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	スポーツ・レクリエーションの総合的な普及・振興により、県民の心身の健全な発達と明るく豊かな社会生活づくりを図るため、指導者の育成や資質向上等活動の充実を図ります。
		千葉県障がい者スポーツ協会との連携	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	千葉県内における障害のある人によるスポーツの振興と健康の維持増進を図るため、協会と連携し、障害者スポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施します。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
総合型スポーツクラブとしてスポーツ庁から事業委託を受けているスマイルクラブでは、昨年度に引き続き、特別支援学校や柏市等の小学校を中心に、バラスポーツ体験の推進を行いました。また、千葉県総合スポーツセンターや千葉県立柏の葉公園の運動施設を調査し、バリアフリーに向けた事業を進めています。	総合型スポーツクラブとしてスポーツ庁から事業委託を受けているスマイルクラブを中心に取組を推進				
指導者養成や表彰関係、部活動の地域移行に関すること等、県スポーツ協会、県スポーツ推進委員連合会、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県レクリエーション協会、県障がい者スポーツ協会等との情報共有・情報発信を行い、連携を図りました。	各関係団体と情報共有				
県スポーツ協会との連携を維持・強化するため、平成23年度より県スポーツ科学センターに分室を設置しています。各種事業の推進や事業成果の把握等が効率的に推進できる体制の整備・充実に努め、市町村や関係団体と連携した支援を行いました。	千葉県スポーツ協会実施事業支援				
今年度は、新型コロナウイルス感染症の対策を講じ、本連合会主催事業は、すべて予定通り開催できました。各事業とも参加者から好評で、研修会等で得た内容を各地域に持ち帰り、共有することにつながっています。次年度に向け県連合会としてのニューノーマルな形が構築できた1年となりました。また、令和6年度の関東研究大会に向けて実行委員会が立ち上がり、企画・準備を進めております。課題としては、各市町村との連絡調整の方法をよりスムーズにできるように検討中です。	研究大会や指導者研修会を開催し、推進委員の資質向上を図るとともに、令和6年度に千葉県開催される関東研究大会の準備委員会を設立				
小中体連：今年度の事業は予定通り実施され、取組の目的は達成されました。 高体連：今年度の事業が予定通り実施され、取組の目的は達成されました。 特支体連：各種大会を地区別にすることにより、3年ぶりに体育大会が実施されました。 高野連：3年ぶりに従前どおりの大会が運営されました。選抜大会には、千葉県から1校が選ばれました。	千葉県高等学校体育連盟事業補助金 千葉県小中学校体育連盟事業補助金 千葉県特別支援学校体育連盟事業補助金 全国高等学校野球大会派遣事業補助金				
9月より特定非営利活動法人(NPO法人)として、新たに活動を開始できました。県内の大学を中心に「若手人材育成事業」を展開した結果、千葉県レク大会に多くの学生が参加し、ブースを受け持ってくれました。また、諸会議は書面会議だけでなく、対面での会議も開催することができました。レク・インストラクター養成講習会を(公財)日本レク協会と協働事業で開催することができました。一方、課題として、今後の会議をオンラインでも実施できるようICTシステムの構築を図りたいと考えております。また、HPの充実化をさらに深めて参ります。	多様化する県民のスポーツニーズに対応できるよう、ニュースポーツ等の指導者の育成等を検討				
千葉県障がい者スポーツ協会と連携し、障害者スポーツの振興を目的として、障害者スポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業を実施した。	障害者スポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業を実施した。				

**リンクE** 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進  
**施策1** 選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上  
**目標** 個々の選手及びチームの競技力向上を推進します。

取組 番号	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	国民体育大会入賞に向けた選手強化	国体選手強化・サポート事業	(107720)	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国民体育大会において男女総合(天皇杯)入賞、女子総合(皇后杯)入賞の成績を収めるため、本県国体代表チーム・選手の継続的・計画的な強化活動を推進します。
イ	未来のアスリートの発掘・育成・強化	ちばジュニア強化事業	(66030)	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	ジュニア層(原則小学生～高校生)を対象に素質のある選手の早期発掘と年齢・競技種目等に応じた計画的・継続的指導を行い、未来のアスリートの発掘・育成・強化や指導者の養成・資質向上を図るとともに地域に根ざした競技の推進を目指します。
		WPN(ワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク)の活用	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	独立行政法人日本スポーツ振興センターと連携し、選手の発掘・育成に関するあらゆる情報の収集や共有をはじめ、会議での指導助言、研修会の開催等の活動を通じて、県内代表選手から世界で活躍する選手への道筋を構築していきます。
ウ	世界で活躍する選手の強化・支援	オリンピックアスリート強化・支援事業	(5,000)	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国体競技ではないが、オリンピックにて実施される競技・種目のトップ選手への支援を行い、オリンピックにおける本県ゆかりのメダリストを輩出することで、県内の競技力の更なる充実を図るとともに、県民に夢と感動を届けます。
エ	指導者の養成・確保・資質向上と適正配置	(指導者の養成・確保・資質向上と適正配置)	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	庁内の関係部署と協議をし、指導者確保と適正配置の具体策を検討します。併せて、地域の核となる運動種目に特化した部活動の在り方について検討を進めます。



取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
国民体育大会において、男女総合成績(天皇杯得点)入賞、女子総合成績(皇后杯得点)入賞の成績を収めるため、本県国体代表チーム・選手の継続的、計画的な強化活動を推進しました。	・国体選手強化支援 ・コーチ等の派遣				
ジュニア層(原則小学生～高校生)を対象に素質のある選手の早期発掘と年齢・競技種目等に応じた計画的・継続的指導を行うとともに、指導者の養成を図り、地域に根ざした競技の推進を目指した事業を実施しました。	・ジュニア選手強化・拠点強化支援 ・若手指導者養成支援 ・ジュニア強化選手の指定				
独立行政法人日本スポーツ振興センターとの連携により、WPN(ワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク)を活用し、選手の発掘・育成に関するあらゆる情報の収集や共有をはじめ、会議での指導助言、研修会の開催等の活動を通じて、県内代表選手から世界で活躍する選手への支援を実施しました。	研修会開催等の支援 ・スポーツライミング競技 選出候補生17名				
国体競技ではないが、オリンピックにて実施される競技・種目のトップ選手への支援を行い、オリンピックにおける本県ゆかりのメダリストを輩出することで、県内の競技力の更なる充実を図るため、オリンピック出場に向けた強化活動を支援しました。	強化指定による支援 ・選手23名				
庁内の関係部署と協議し、指導者確保と適正配置の具体策と国体の成果を踏まえた、地域の核となる運動種目に特化した部活動の在り方について検討を進めました。	指導者確保と適正配置の検討				

**リンクE** 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進  
**施策2** 競技力向上のための環境整備  
**目標** 計画的に競技用具の整備を進めるとともに、トップチームを支援し  
 競技団体の強化環境を整えます。

取組 番号	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	競技用具等 整備事業	(競技用具等整 備事業)	(6800)	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	選手強化に必要な用具等を整備し、選手が高いパフォーマンスを発揮する ための環境を整備します。
イ	トップチーム 支援事業	(トップチーム支 援事業)	(7200)	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	本県において国民体育大会で活躍し、各競技の主軸となる競技力を有す る顕著な企業等の運動部をトップチーム団体として指定し、その主体的な 強化活動の支援を推進します。
ウ	公共スポー ツ施設の有 効活用	(公共スポーツ施 設の有効活用)	-	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	ジュニア選手や県選抜チーム・選手が効果的・効率的に練習することがで きるよう、公共スポーツ施設等の優先的使用について、理解と協力を得る ように努めます。
エ	選手・指導 者の参加条 件の整備	(選手・指導者の 参加条件の整 備)	-	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	競技力向上事業の推進にあたっては、児童生徒や教員の学校教育活動に 支障をきたさぬよう十分配慮しながら、所属長に理解を得られるよう努めま す。
オ	ICTを活用 した新しい 強化様式の 整備	(ICTを活用した 新しい強化様式 の整備)	-	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	新しい生活様式に対応したオンライントレーニングや、オンラインミーティン グを行えるようICT環境を整備していきます。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
選手強化に必要な用具等を整備し、選手が高いパフォーマンスを発揮するための環境を整備しました。	強化練習等に必要な競技用具の整備 (5競技団体) ・セーリング ・ライフル射撃 ・馬術 ・バレーボール ・スポーツクライミング				
本県において国民体育大会で活躍し、各競技の軸となる競技力を有する顕著な企業等の運動部をトップチーム団体として指定し、その主体的な強化活動の支援を推進しました。	強化指定による支援 ・18競技38団体				
ジュニア選手や県選抜チーム・選手が効果的・効率的に練習することができるよう、公共スポーツ施設等の優先的使用について、理解と協力を得ながら、施設の有効活用を進めました。	公共スポーツ施設の有効活用 ・県総合スポーツセンター ・県国際総合水泳場				
競技力向上事業の推進にあたって、児童生徒や教員の学校教育活動に支障をきたさぬよう十分配慮しながら、所属長に競技会等への参加について、可能な限り配慮いただけるよう依頼しました。	協力依頼文の送付等、協力依頼				
新しい生活様式に対応したオンライントレーニングや、オンラインミーティングを行えるよう、ICT環境の整備に努めました。	ICT環境の整備				

**リンクE** 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進  
**施策3** 効果的な選手強化のためにスポーツ医・科学の活用を推進します。  
**目標** 楽しく体を動かす遊びを通して、運動習慣の基盤を作り、運動能力の基礎を培います。

取組 通番	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	マルチコン ディショニン グサポート 事業	基礎能力測定・ 障害相談・栄養 相談の実施	(370)	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	スポーツドクター・アスレティックトレーナーによる測定データ解析を実施し、指導者等にフィードバックするとともに、指導者が効果的なトレーニング方法、けがの予防方策等に活用できるような知識や技能の充実に図ります。また、選手の栄養状況調査などを計画的に進め、選手、指導者、保護者等に食生活の在り方等についてサポートする体制を確立します。さらに、スポーツ科学センターの機能の充実と、より専門的な科学的データの蓄積を図ります。
		スポーツドク ター・アスレティ ックトレーナー等 の派遣	(6155)	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員会から推薦されたスポーツドクター・アスレティックトレーナーを国民体育大会や強化活動等に派遣し、選手の健康管理、障害予防、スポーツ外傷の応急措置、リハビリテーション等に対応します。また、競技団体が独自にコンディションアップできるように支援します。
		メディカルチェッ クの実施	(320)	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	国体帯同スポーツドクター(公益財団法人千葉県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員)により、国体参加選手が提出した健康診断票及び基本健康診断用紙のチェックを行います。その中で、禁止薬物使用の有無などについてもチェックを行い、ドーピング防止にも努めます。
		ドーピング防止 啓発活動の普及	(255)	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	スポーツファーマシストを活用し、アンチ・ドーピングについての理解を深め、ドーピング防止の教育・啓発活動を推進・促進していきます。また、国民体育大会出場選手・監督を対象とした、アンチ・ドーピング研修・講習会を実施します。
		女性アスリート強 化・支援の充実	(700)	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	女性アスリートに必要なスポーツ医・科学サポートや、コンディション等に関する研修・講習会、スポーツに関する相談会を実施します。また、育児との両立を図りながら、競技力の向上を可能にしていくための環境づくりを整備していきます。
		その他の活動	(150)	競技ス ポーツ振 興課	競技ス ポーツ班	強化練習会、強化合宿、県外遠征、招聘試合等において新型コロナウイルス感染者を発生させないために、競技団体ごとに感染防止対策マニュアルの作成及び見直しを行い、感染防止対策を支援していきます。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
千葉県スポーツ科学センターにおける測定、データ解析を実施し、選手・指導者等にフィードバックするとともに、効果的なトレーニング方法、けがの予防方策等に活用できる知識や技能の充実に努めました。併せて、アスレティックトレーナーによる障害相談、管理栄養士による栄養指導、スポーツファーマシスト(薬剤師)によるドーピング防止啓発活動を行いました。さらに、スポーツ科学センターの機能の充実に努め、より専門的な科学的データの蓄積を図りました。	運動能力測定実施 ・4競技55人 (R4.12末現在)				
県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員会から推薦されたスポーツドクター・アスレティックトレーナーを国民体育大会や強化活動等に派遣し、選手の健康管理、障害予防、スポーツ外傷の応急措置、リハビリテーション等に対応するとともに、競技団体が独自にコンディションアップできるように支援しました。	トレーナー等の派遣 ・強化練習等 9競技128人 ・国体関東ブロック大会 20競技49人 ・国体本大会 21競技39人 (R4.12末現在)				
国体帯同スポーツドクター(公益財団法人千葉県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員)により、国体参加選手が提出した健康診断票及び基本健康診断用紙のチェックを行いました。その中で、禁止薬物使用の有無などについてもチェックを行い、ドーピング防止にも取り組みました。	メディカルチェックの実施 ・国体本大会 444人 ・国体冬季大会 48人 (R4.12末現在)				
スポーツファーマシストを活用し、アンチ・ドーピングについての理解を深め、ドーピング防止の教育・啓発活動を推進・促進しました。また、国民体育大会出場選手・監督を対象とした、アンチ・ドーピング研修・講習会を実施しました。	アンチ・ドーピング研修会 ・参加者49名 ドーピング防止講習会 ・参加者44名				
女性アスリートに必要なスポーツ医・科学サポートや、コンディション等に関する研修・講習会を実施しました。また、育児との両立を図りながら、競技力の向上を可能にしていくための環境づくりの整備に努めました。	国体対策委員会 総会講演会 ・参加者114名 女性アスリート強化・支援講演会 ・参加者95名				
強化練習会、強化合宿、県外遠征、招聘試合等において新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、競技団体ごとの感染防止対策マニュアルに基づいた感染防止対策を支援しました。	感染防止対策支援				

リンクE 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進  
 施策4 組織・調査等の充実  
 目標 国体選手選考、パラアスリートを取り巻く組織体制の整備、強化活動調査事業や競技力向上対策を行います。

取組 通番	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	各種会議の 充実	千葉県競技力向上推進本部会議等の開催	(1200)	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	計画的な強化施策を推進するために、本部会議、総務企画部会、普及育成強化部会、パラアスリート部会等を開催し、県全体で競技力向上施策の着実な具現化に努めます。
		研修等による組織力の向上	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	ヘッドコーチやジュニア強化等の担当者会議を開催し、研修を充実させ、効率的・効果的な強化活動の展開に努めます。また、スポーツ・インテグリティ推進・促進のために、組織のコンプライアンス体制の整備と、ガバナンスの強化を図ります。
		国体選手選考・強化活動調査事業	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	本県競技力の現状把握、他県の戦力分析、国体代表選手団の選考等のため、競技力向上委員会を開催します。また、強化活動視察(通年)として大会会場や強化事業会場等への激励および視察を引き続き実施します。国体選手、監督、コーチの競技力把握と分析、競技団体との連携を図ります。さらに、戦力分析会議を実施し、本県競技力の現状把握や他県の強化施策の分析を行い、その結果を基に、競技団体へ指導・助言を行います。
イ	各種表彰と 広報活動の 充実	優秀選手及び優秀監督の表彰	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国民体育大会において功績の顕著な個人又は団体を表彰します。(再掲)
		広報活動の充実	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	競技力向上推進本部事業、国民体育大会の結果等のパンフレットを作成し、配布します。また、インターネット等、各種メディアを利用した広報活動を実施します。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
計画的な強化施策を推進するために、本部会議、総務企画部会、普及育成強化部会、パラアスリート部会等を開催し、県全体で競技力向上施策を具体的に検討しました。	千葉県競技力向上推進本部会議等の開催 ・本部会議 年1回 ・総務企画部会 年1回 ・普及育成強化部会 年2回 ・パラアスリート部会 年1回				
ヘッドコーチやジュニア強化等の担当者会議を開催し、研修を充実させ、効率的・効果的な強化活動の展開に努めました。また、スポーツ・インテグリティ推進・促進のために、組織のコンプライアンス体制の整備と、ガバナンスの強化を図りました。	国体対策委員会総会 ・参加者約130名 強化、派遣担当者会議 ・参加者約100名				
本県競技力の現状把握、他県の戦力分析、国体代表選手団の選考等のため、競技力向上委員会を開催しました。また、強化活動視察(通年)として大会会場や強化事業会場等への激励および視察を行い、国体選手、監督、コーチの競技力把握と分析、競技団体との連携を図りました。さらに、戦力分析会議を実施し、本県競技力の現状把握や他県の強化施策の分析を行い、その結果を基に、競技団体へ指導・助言を行いました。	・競技力向上委員会の開催 年14回 ・戦力分析会議の実施 年3回				
競技力向上推進本部事業、国民体育大会の結果等のパンフレットを作成し、配布しました。また、インターネット等、各種メディアを利用しての広報活動を実施しました。	国体リーフレット配布 ・10000部 県教委ニュース掲載 ・年8回 ホームページアクセス数 ・34,276件 (R4.11末現在)				

**リンクE** 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進  
**施策5** 競技スポーツの充実及び好循環  
**目標** 各競技会の充実と競技人口の拡大を図るとともに、トップアスリート等の能力活用を推進します。

取組 番号	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	競技スポーツへの参加(する・みる・ささえる)の裾野拡大	(競技スポーツへの参加(する・みる・ささえる)の裾野拡大)	(8445)	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	千葉県民体育大会の開催及び各競技会でのサブイベントの実施に対し、積極的支援を行っていきます。また、国民体育大会千葉県大会(国体予選)開催の充実を図っていきます。
イ	トップアスリート等活用事業	(トップアスリート等活用事業)	(800)	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより選手強化事業の成果を地域スポーツに還元するとともに、更なるスポーツの推進を図ります。
ウ	アスリートキャリア開発	(アスリートキャリア開発)	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国体選手等の本県への就職を支援し、スポーツキャリアを活かしたセカンドキャリアへの移行を進めるため、調査・研究、ヒアリング等を行います。
エ	国際スポーツ交流への協力	(国際スポーツ交流への協力)	(1986)	生涯スポーツ振興課	企画調整班	F-3「ドイツ・デュッセルドルフ市、台湾・桃園市とのスポーツ交流の継続」に記載
オ	教育・研修プログラムの推進	(教育・研修プログラムの推進)	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	アスリートや関係者一人一人が主体的にスポーツ・インテグリティの意義を理解し、スポーツの価値を守り、高める役割を担う者として適切に行動できるよう、専門家の協力を得ながら、主体的かつ能動的な学習を促す効果的な教育プログラムを推進・促進していきます。



取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
千葉県民体育大会の開催及び各競技会でのサブイベントの実施に対し、積極的支援を行いました。また、国民体育大会千葉県大会(国体予選)開催の充実を図りました。	千葉県民体育大会 ・18市1郡開催 ・参加者7574名 千葉県民体育大会第二部(国体予選) ・実施競技数40競技				
オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより選手強化事業の成果を地域スポーツに還元し、スポーツの推進を図りました。	トップアスリート等活用事業 ・実施回数32回 ・講師派遣数47人				
国体選手等の本県への就職を支援し、スポーツキャリアを活かしたセカンドキャリアへの移行を進めるため、調査・研究、ヒアリング等を行いました。	アスリートの就職支援の調査・研究				
アスリートや関係者一人一人が主体的にスポーツ・インテグリティの意義を理解し、スポーツの価値を守り、高める役割を担う者として適切に行動できるよう、専門家の協力を得ながら、主体的かつ能動的な学習を促す効果的な教育プログラムを推進・促進に努めました。	効果的教育プログラムの推進				

リンクF スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり  
 施策1 アスリートと連携したスポーツの価値の発信  
 目標 知るから広がる「する・みる・ささえる」スポーツの更なる推進を図ります。

取組 番号	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	トップ・プロ スポーツ連 携事業	ちば夢チャレン ジかなえ隊派遣 事業	-	生涯ス ポーツ振 興課	生涯ス ポーツ室	A-2「ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業」に記載
		ちば夢チャレン ジ☆パスポート・ プロジェクト	-	生涯ス ポーツ振 興課	生涯ス ポーツ室	子どもたちがスポーツ選手への夢や憧れを抱くことができるよう、千葉ロッテマリーンズ、千葉ジェッツふなばし、ジェフ・ユナイテッド市原・千葉、NECグリーンロケッツ東葛、千葉ゼルバ等のトップ・プロスポーツチームと共同で、県内在学の小学生とその保護者を公式戦へ招待するとともに、キャリア体験プログラムを実施します。
イ	トップ・プロ スポーツ連 絡協議会	(トップ・プロス ポーツ連絡協議 会)	330	生涯ス ポーツ振 興課	生涯ス ポーツ室	トップ・プロスポーツチームが掲げている活動拠点における地域貢献の取組みに対して積極的な連携を図るため、平成24年5月にプロスポーツチームとアマチュアスポーツにより立ち上げた組織と連携し、学校や地域を繋ぐシステムの構築を目指す「千葉県トップ・プロスポーツ連絡協議会」を開催します。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
<p>子どもたちがスポーツ選手への夢や憧れを抱くことができるよう、千葉ロッテマリーンズ、千葉ジェッツふなばし、ジェフ・ユナイテッド市原・千葉、NECグリーンロケッツ東葛、千葉ゼルバ、アルティアーリ千葉等のトップ・プロスポーツチームと共同で、県内在学の小学生とその保護者を公式戦へ招待するとともに、キャリア体験プログラムを実施した。</p>	<p>従来の5チームに、新たに2チームを加え、合計7チームにおいて、公式戦の観戦を実施</p>				
<p>令和4年度からアルティアーリ千葉(バスケット)が新規加入し、加盟団体が全部で11団体となった。</p>	<p>「千葉県トップ・プロスポーツ連絡協議会」を開催※1チームが新規加入し、合計11チームで構成</p>				

**リンクF** スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり  
**施策2** 地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信  
**目標** 地域資源を活用したスポーツの振興とともに、健康づくりや体力向上の機運の醸成と、ライフステージに応じた運動習慣の定着を図ります。

取組 通番	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千 円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	交流機会の 創出	ちばアクアライン マラソンの開催	(13590 0)	生涯ス ポーツ振 興課	アクアライン マラソン 準備室	「スポーツの振興」と「千葉県の魅力発信」を二本柱とした大会を開催し、多くの人たちに千葉県と東京湾アクアラインの魅力を知ってもらうことで、人や物の交流を基とした地域活性化を図る。さらに、これまで育んできた「おもてなしの心」と、東京オリンピック・パラリンピックの開催により改めて認識された「スポーツの持つ力と価値」を未来につないでいくことをコンセプトとし、「ちばアクアラインマラソン2022」を開催します。
		スポーツツーリ ズムの推進	(65,92 1)	観光企画 課	観光企画 室	中長期的な観光需要を拡大するため、市町村や観光に携わる民間事業者等が実施する、継続性のある広域的な取組に対し、経費の一部を助成します。
イ	積極的な関 わりの促進	スポーツボラン ティア活動の推 進	(21715 )	生涯ス ポーツ振 興課	アクアライン マラソン 準備室	ちばアクアラインマラソンを「ささえる」スポーツボランティアの活動をとおして、スポーツを支える大切さと喜びを感じ、「する・みる・ささえる」スポーツの推進を図る。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
「スポーツの振興」と「千葉県の魅力発信」を二本柱とした大会を開催し、多くの人たちに千葉県と東京湾アクアラインの魅力を知ってもらうことで、人や物の交流を基とした地域活性化を図る。さらに、これまで育んできた「おもてなしの心」と、東京オリンピック・パラリンピックの開催により改めて認識された「スポーツの持つ力と価値」を未来につないでいくことをコンセプトとし、「ちばアクアラインマラソン2022」を開催しました。大会は天候にも恵まれ、約1万5千人のランナーが東京湾アクアライン上を駆け抜け、完走率は過去最高の92.1%でした。	令和4年11月6日(日)ちばアクアラインマラソン2022実施				
中長期的な観光需要を拡大するため、市町村や観光に携わる民間事業者等が実施する、「東京2020のレガシーを活かした『外房プレミアム・サーフィンツアー』」などの継続性のある広域的な7つの取組に対し、経費の一部を助成しました。	活用事業者数:7				
大会へは地元自治会、企業、学生等から約5千人のボランティアが参加し、ちばアクアラインマラソンを「ささえる」スポーツボランティアの活動をとおして、スポーツを支える大切さと喜びを感じ、「する・みる・ささえる」スポーツの推進を図りました。	令和4年9月～10月 ボランティア説明会実施 令和4年11月6日(日)ちばアクアラインマラソン2022 ボランティア活動				

**リンクF** スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり  
**施策3** オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展  
**目標** オリンピック・パラリンピックの無形のレガシーを継承するとともに、オリンピック・パラリンピックのレガシーを有効活用した地域の活性化を推進します。

取組番号	具体的な取組	各取組名	決算額 (単位:千円)	担当課	室班	各取組の概要
ア	オリンピック・パラリンピック教育の継承	心のバリアフリー教育推進事業	(6100)	教育政策課	教育立県推進室	これまでのオリンピック・パラリンピックを活用した教育を無形のレガシーとして、引き続き、共生社会の形成を目指して、児童生徒がパラスポーツの楽しさ、ボランティア精神、障害のある方への理解等を身につけられるよう推進します。 (1)教員の資質向上の取組 (2)児童生徒の意識向上と家庭・地域等への普及啓発の取組 (3)更なる発展・継続するための取組
		特別支援学校におけるパラスポーツ推進事業	-	特別支援教育課	教育課程指導室	パラスポーツを推進していくことを通じて、スポーツを楽しむ経験を通じた障害への理解を深め、共生社会の実現を目指します。
イ	競技団体等との学校における連携事業	競技団体等と連携した学校訪問事業	1,660	生涯スポーツ振興課	企画調整班	東京2020大会を契機とする県内開催競技を始めとしたスポーツの普及・振興に向けて、千葉県内の学校において、競技団体と連携し、アスリートを講師役として競技説明・紹介及び競技体験を実施します。
		JOCオリンピック教室	1,715	生涯スポーツ振興課	企画調整班	オリンピック教育の推進を図るため、県内の公立中学校において、JOCオリンピック教室(※)を実施します。 (※)JOCオリンピック教室とは、オリンピック(オリンピック出場経験のあるアスリート)が教師役となり、自身の様々な経験を通して、生徒たちにオリンピックの価値等を伝えるとともに、この価値がオリンピックだけでなく、多くの人々が共有し、日常生活にも生かすことのできるものであることを、授業を通して学習してもらうプログラム。
ウ	ホストタウン相手国等との国際理解・国際交流の促進	オランダ王国との国際交流の促進	-	生涯スポーツ振興課	企画調整班	国内およびアジア近郊で開催される国際大会に向けた、オランダ代表チームの事前キャンプの受入れと、その際の県民との交流事業の実施に向けた調整を行います。
		ドイツ・デュッセルドルフ市、台湾・桃園市とのスポーツ交流の継続	(1986)	生涯スポーツ振興課	企画調整班	ドイツ・デュッセルドルフ市及び台湾・桃園市との、スポーツ交流を通じた競技力の向上や国際交流の推進を図ります。 デュッセルドルフ市はテニスと卓球、桃園市は卓球について、中学・高校生以下を中心とした選抜選手の相互派遣の実現に向けた交渉・調整を行います。 (予算額は、千葉県卓球連盟が行う桃園市とのスポーツ交流事業に要する経費への補助金)
エ	マリンスポーツを活用した地域の魅力向上	(マリンスポーツを活用した地域の魅力向上)	9,186	生涯スポーツ振興課	企画調整班	東京2020大会を契機として、スポーツの魅力が再認識されたことを踏まえ、県内の豊かな自然を活かしたサーフィンなどのスポーツと、その地域に根差す文化や食材などの魅力を組み合わせた体験ができるようにすることで、本県でスポーツに親しむ人を増やし、地域の活性化を推進します。
オ	「新たなスポーツ」の周知・研究	(「新たなスポーツ」の周知・研究)	(6,600)	生涯スポーツ振興課	企画調整班	あらゆる人がスポーツを楽しめるよう、障害の有無や年齢等に関係なく様々な人が一緒にできるユニバーサルスポーツ、BMXやスケートボード等のアーバンスポーツ、体の動きに連動して画面上のアバターが動くバーチャルスポーツ等、新しい分野のスポーツの研究に取り組みます。

取組の成果・課題 (R4)	R4 取組の実績	R5 取組の実績	R6 取組の実績	R7 取組の実績	R8 取組の実績
(1)児童生徒、保護者、地域住民等への教育や理解の推進のため、教員の資質向上を図るオンライン研修を実施し、アンケート結果から90%以上が参考になったとの回答がありました。夏季休業中など教員が研修を行いやすい時期での実施を検討していきます。 (2)地域拠点校に小18校、中10校、県立学校9校、私立学校3校を指定し、心のバリアフリー教育を地域等へ普及することができました。また、日本財団バラスポーツサポートセンターと連携し、県内の101校にパラアスリート等を講師として、バラスポーツ体験や交流を行いました。学校に過度な負担の無いよう、普及啓発に取り組んでいます。 (3)県や各校の実践内容について、Webページや県教委ニュース等で積極的に広報することができました。また、今年度の優れた実践について募集を行い、表彰することができました。	(1)オンラインセミナーの実施 (公立学校の教職員1名以上受講) (2-1)地域拠点校を40校指定 (2-2)バラスポーツの体験等を101校実施 (3)グッドプラクティスの顕彰				
東京パラリンピック競技大会の成果をレガシーとして本県に定着させていくために、特別支援学校の児童生徒と教員が小・中学校等に出向くバラスポーツの出前授業や用具貸出しを実施しました。また、バラスポーツや県立特別支援学校の取組を紹介するパンフレットを県内市町村や関係機関へ配布しました。	(1)バラスポーツ推進のための出前授業 (2)バラスポーツ用具の整備 (3)バラスポーツ紹介パンフレットの配布				
東京2020大会で県内開催したサーフィン、フェンシングの普及・振興に向けて以下のとおり学校訪問を実施しました。 サーフィン学校訪問では、千葉県で活動するプロサーファーを講師として、長生地域の小学校10校で約570名を対象に、参加児童がプールでサーフボードを使用したパドルリング・スタンディングを体験する学校訪問を実施しました。 フェンシング学校訪問では、オリンピックメダリストを講師として、県内各教育事務所管内で1校ずつ、計5校の小中学校約900名を対象に、柔らかい構造剣を用いたスマートフェンシングによるフェンシング体験会を実施しました。	○フェンシング学校訪問 各教育事務所管内で1校ずつ、計5校で実施 ○サーフィン学校訪問 長生地域の小学校10校で実施 ○ブレイキン学校訪問 千葉市の小学校1校で実施				
オリンピック教育の推進を図るため、JOCと連携し、県内公立中学校6校においてJOCオリンピック教室を実施しました。教室では、生徒達が教師役であるオリンピック選手の授業を通じてオリンピックの精神や価値等を熱心に学ぶ様子が見られました。	実施校 (1)習志野市立第六中学校 5/10-11 (2)市原市立辰巳台中学校 5/24-25 (3)千葉市立松ヶ丘中学校 6/2-3 (4)大多喜町立大多喜中学校 9/6 (5)東庄町立東庄中学校 10/12 (6)柏市立南部中学校10/14				
令和5年に日本国内で開催予定の国際大会について、オランダ競技団体に事前キャンプの意向を確認したところ、実施予定はないとのことでした。引き続き、事前キャンプ受入れを想定した協議を継続するとともに、特にバラスポーツ振興を目的とした交流事業実施のための調整を行ってまいります。	事前キャンプ実施の意向がなかったため、取組なし				
令和5年1月、千葉県卓球連盟が台湾・桃園市との卓球交流事業を実施し、事業経費に対する補助を行いました。ドイツ・デュッセルドルフ市からは、テニス及び卓球の交流事業について、令和5年度以降の再開に係る意向の確認があり、競技団体からも前向きな回答が得られています。事業の実施・継続のため、引き続き協議を行ってまいります。	千葉県と台湾・桃園市との卓球国際交流事業実績 期間：令和5年1月3日～1月7日 参加者数：桃園市選手団計19名（選手（高校生）男女各6名、役員等7名） 千葉県選手団計91名（選手（高校生主体）男子36名、女子31名、役員等24名） 交流練習や交流試合、学校視察等を実施しました。				
一宮町・いすみ市と連携し、サーフィンを中心に、スポーツと歴史・文化・食の魅力を組み合わせたスポーツツーリズムのモデルルートを作成しました。作成後は紹介サイトを開設し、SNS等で広告配信をしたほか、県民だよりや県のSNS等も活用するなど、積極的に周知を行いました。	・協議会の開催（計4回） ・モデルルートの作成（2ルート） ・モニターツアーの実施（2回）				
「新たなスポーツ」の、情報共有や普及促進を図るため、学識経験者・スポーツクラブ関係者・メディア・競技団体関係者等を委員とする「新たなスポーツ」普及促進協議会を組織し、県HPや広報誌、ラジオ番組、SNS等で情報発信を行ったほか、アーバンスポーツやユニバーサルスポーツの体験会を開催しました。また、バーチャルサイクリングのオリジナルコースを作成し、このコースを使用した体験会を、県内各地で開催しました。	・「新たなスポーツ」普及促進協議会の開催（2回） ・バーチャルサイクリング県オリジナルコースの作成（4コース） ・各スポーツの体験会等の開催（ユニバ3回・アーバン3回・バーチャル7回） ・県HP、SNS等を利用した情報発信				